

独立行政法人日本芸術文化振興会 御中

令和6年度 国立劇場伝統芸能伝承者養成所 応募者確保のための調査

2025年1月27日

1. 定量調査	
1-1. 調査概要	 5
定量調査の概要	
調査項目	
1-2. 調査結果	 9
属性	
伝統芸能の認知・興味関心	
趣味・SNS	
伝統芸能との接点	
伝統芸能のイメージ・他の文化的体験への興味関心	
職業選択について	
養成所の認知	
伝統芸能に関する情報・養成所に希望すること	
2. 定性調査	
2-1. 調査概要	 46
定性調査の概要	
インタビューフロー（調査内容）	
対象者について	
2-2. 調査結果	 51
各グループの特徴	
調査結果のまとめと所見	
総括	
3. 今後に向けたご提案	 67
保護者の伝統芸能の職業への理解度向上	
保護者が後押しできると思える情報の発信	

調査目的

国立劇場伝統芸能伝承者養成所における認知度向上と継続的な研修生応募者の獲得という課題に対応するために、研修生応募検討世代の子をもつ親世代に対する調査を実施し、研修生応募者確保のための今後の対応策を提案する。

調査の流れ

本調査では、「定量調査」を行った後に「定性調査」を実施した。伝統芸能を子供の職業として捉えた際の印象について、定量調査で傾向を量的に把握した上で、その結果を基に「定性調査」を実施することにより詳細の把握も行った。

定量調査



研修生応募検討世代の子をもつ親世代1,200名に対し、子供の職業としての伝統芸能に対する印象について聴取を行う。多くのサンプルを回収することにより、回収結果を数値化し量的に把握を行う。

調査方法：インターネットモニター調査

調査期間：2024年12月4日（水）
～12月9日（月）

調査対象：全国30～69歳男女のうち、
小学校4年生～大学生の子供を
もつ人1,200名

サンプル内訳

- | | |
|--|------|
| 【関心層】伝統芸能に興味・関心あり | 400s |
| 【一般層①】伝統芸能にどちらかといえば
興味・関心あり | 400s |
| 【一般層②】伝統芸能にどちらかといえば興味・
関心なし、興味・関心なし | 400s |

定性調査



定量調査の回答者の中から8名を選定し、より踏み込んだ内容について聴取を行う。定量調査では捉えることができなかった回答内容の背景・理由について具体的に把握を行う。

調査方法：フォーカスグループインタビュー

調査期間：2024年1月8日（水）

調査対象：定量調査回答者のうち、
伝統芸能関心者4名×2グループ

グループ構成

- | |
|--|
| 【グループ1】子供が希望する場合は
伝統芸能の職業に就いても良い |
| 【グループ2】子供が希望する場合でも
伝統芸能の職業に就いて欲しくない |

ご提案



定量調査・定性調査の結果より、子供が伝統芸能の職業を選択する際の保護者が抱える課題を明らかにした上で、研修生応募者確保のためのご提案を行う。

1. 定量調査

1-1. 定量調査 調査概要

調査目的

国立劇場伝統芸能伝承者養成所における認知度向上と継続的な研修生応募者の獲得という課題に対応するために、研修生応募検討世代の子をもつ親世代に対する調査を実施し、伝統芸能の職業に対する印象について量的に把握を行う。

調査方法

インターネット調査モニターへのインターネット調査

調査期間

2024年12月4日（水）～12月9日（月）

調査対象

- 全国30～69歳男女個人
- ・伝統芸能への興味・関心が高い人（関心層）
➡ 伝統芸能に「興味・関心がある」と回答した対象者
 - ・伝統芸能への興味・関心がやや高い人（一般層①）
➡ 伝統芸能に「どちらかといえば興味・関心がある」と回答した対象者
 - ・伝統芸能への興味・関心が高くない人（一般層②）
➡ 伝統芸能に「どちらかといえば興味・関心がない」「興味・関心がない」と回答した対象者

調査件数

- ・スクリーニング調査：7,437サンプル
 - ・本調査：関心層400サンプル
一般層①400サンプル
一般層②400サンプル
- 【回収サンプル数】

		関心層		一般層①		一般層②	
		子供の性別					
		男性	女性	男性	女性	男性	女性
子供の 学年	小中学生	156	55	123	88	110	112
	高校生	99	41	81	42	80	48
	大学生	35	14	42	24	30	20
合計		400		400		400	

【本調査】回収の考え方
応募を検討する世代となる「小学校4～6年生」「中学生」「高校生」「大学生」の子供をもつ親を対象とし、スクリーニング調査で対象条件にあてはまった回答者を本調査では関心層、一般層①、一般層②に分け、それぞれ子供の性別・学年で目標数を定めて回収を行った。関心層については、現在の養成所における研修生の男女比率と同程度の比率となるよう回収を行った。また、「本人が伝統芸能体験あり」または「子供が伝統芸能を習っている」対象者を優先的に回収した。学年間においては、応募検討開始の世代となる小中学生の比重を大きくし、次いで高校生、大学生の順に多く回収を行った。

調査実施機関

株式会社サーベイリサーチセンター

項目	NO.	WEB調査の設問・選択肢
属性	F1	あなたの性別を選択してください。
	選択肢	男性、女性、その他
	F2	あなたの年齢をお知らせください。
	選択肢	自由回答
	F3	あなたのお住まいを選択してください。
	選択肢	47都道府県
	F4	あなたのご職業を選択してください。
	選択肢	会社役員、会社員、専門職、自営業、自由業、公務員、学生、専業主夫・主婦、パート・アルバイト、無職、その他
	SC1	あなたはお子様をお持ちですか。お子様の人数を教えてください。いらない場合は0人を選択してください。
	選択肢	0人（子どもはいない）、1人、2人、3人、4人、5人、6人、7人、8人、9人、10人、11人以上
	SC2	お子様の性別を選択してください。 【質問項目：お子様①・お子様②・お子様③・お子様④・お子様⑤・お子様⑥・お子様⑦・お子様⑧・お子様⑨・お子様⑩】
	選択肢	男性、女性、その他
	SC3	お子様の学年または職業を選択してください。 【質問項目：お子様①・お子様②・お子様③・お子様④・お子様⑤・お子様⑥・お子様⑦・お子様⑧・お子様⑨・お子様⑩】
	選択肢	未就園、幼稚園・保育園等の就学前、年少、年中、年長、小学校1～3年、小学校4～6年、中学生、高校生、大学生、専門学生、大学院生、会社員、会社役員、パート・アルバイト、自営業、自由業、専業主婦・主夫、無職、その他
	SC4	中学生以上のお子様を持つ方におうかがいたします。お子様の次の進学予定について、もっともあてはまるものを選択してください。 【質問項目：お子様①・お子様②・お子様③・お子様④・お子様⑤・お子様⑥・お子様⑦・お子様⑧・お子様⑨・お子様⑩】
	選択肢	高校（受験あり）、高校（受験なし）、大学（受験あり）、大学（受験なし）、専門学校（専修学校）、その他の進路（留学など）、大学院、進学しない（就職など）、その他、知らない/分からない
	SC5	高校生以上のお子様を持つ方におうかがいたします。お子様の現在の高校、大学における専攻を教えてください。 【質問項目：お子様①・お子様②・お子様③・お子様④・お子様⑤・お子様⑥・お子様⑦・お子様⑧・お子様⑨・お子様⑩】
	選択肢	法学系、文・人文・外国語系、経済・商・経営系、国際系、家政・生活・栄養系、看護・保健・医療系、福祉系、農学系、薬学系、理工系、芸術系（美術関係）、芸術系（デザイン関係）、芸術系（音楽関係）、芸能系（俳優・声優・ミュージシャン・ダンサー）、その他、まだ決まっていない/専攻はない（普通科含む）、知らない/分からない
	SC6	あなたと同居の家族を選択してください。
	選択肢	父親、母親、祖父母、兄弟姉妹、配偶者、ご自身の子ども、配偶者の親、その他の親族・家族、その他、いない
SC7	あなたのお子様がこれまでに行ったことがある習い事・部活・サークルを選択してください。 【質問項目：お子様①・お子様②・お子様③・お子様④・お子様⑤・お子様⑥・お子様⑦・お子様⑧・お子様⑨・お子様⑩】	
選択肢	サッカー・野球・テニスなどの球技全般、体操・新体操・アイススケート、陸上、水泳、ピアノ・バイオリンなどの洋楽器、演劇、歌・ポータル・コーラス・声楽、ダンス・チアダンス、バレエ、空手・合気道・柔道・剣道、日本舞踊、囲碁・将棋、華道・生け花・茶道、書道、美術・絵画・造形、日本音楽（三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫）、外国語、歌舞伎・能・狂言・人形浄瑠璃文楽・太神楽、その他の伝統芸能、その他、知らない/分からない	

伝統芸能の認知・興味関心	SC8	あなたは以下の伝統芸能を知っていますか。 【質問項目：歌舞伎・日本音楽（三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫など）・能楽（能・狂言）・人形浄瑠璃文楽・日本舞踊・寄席の芸能（落語・講談・太神楽・漫才・奇術など）・雅楽・組踊・その他】
	選択肢	鑑賞をしたことがある、体験をしたことがある、鑑賞・体験どちらもしたことがある、鑑賞・体験はしたことはないが内容は知っている、芸能のジャンル（部門・種類）は知っている、名前だけ知っている、名前も内容も知らない
	SC9	あなたは以下の伝統芸能に興味・関心がありますか。 【質問項目：歌舞伎・日本音楽（三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫など）・能楽（能・狂言）・人形浄瑠璃文楽・日本舞踊・寄席の芸能（落語・講談・太神楽・漫才・奇術など）・雅楽・組踊・その他】
選択肢	興味・関心がある、どちらかといえば興味・関心がある、どちらかといえば興味・関心がない、興味・関心がない	
趣味・SNS	Q1	あなたとお子様の趣味をそれぞれ選択してください。（お子様が複数いる場合は全てのお子様を含めて選択してください。） 【質問項目：あなた・お子様】
	選択肢	スポーツ・体を動かすこと、スポーツ観戦、演芸・演劇・舞踊鑑賞、映画・アニメ鑑賞、写真撮影、クラシック音楽鑑賞、ポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞、ライブ観戦、楽器の演奏、歌・ポータル・コーラス・声楽、カラオケ、美術・絵画・造形・美術鑑賞、囲碁・将棋、読書、YouTubeなどインターネットでの動画配信、ブログやSNS投稿、ゲーム、メイク・ファッション、その他、知らない/分からない
	Q2	あなたが普段利用しているSNSは何ですか。あてはまるものを全て選択してください。
選択肢	LINE、WhatsApp、Skype、X（旧Twitter）、Mastodon、Facebook、mixi、LinkedIn、Instagram、YouTube、TikTok、17LIVE、Pococha、LINE LIVE、Voicy、stand.fm、BeReal、その他、利用していない、知らない/分からない	
伝統芸能との接点	Q3	あなたの身近に伝統芸能との接点はありましたか。
	選択肢	家族が伝統芸能をやっている／やっていた、親戚・友人・知人が伝統芸能をやっている／やっていた、家族が伝統芸能を好き／好きだった、親戚・友人・知人が伝統芸能を好き／好きだった、自分が習い事として伝統芸能をやっている／やっていた、自分が部活やサークルで伝統芸能をやっている／やっていた、学校の授業や行事で観る機会がある／あった、学校の授業や行事で体験する機会がある／あった、祭りで観る機会がある／あった、祭りで体験する機会がある／あった、伝統芸能を観に行く／観に行っていた、伝統芸能をテレビで視聴する／視聴していた、伝統芸能を動画配信サービス（Amazonプライムビデオ・Netflix・Hulu など）で視聴する／視聴していた、伝統芸能をSNSで視聴する／視聴していた、自分の通う保育園・幼稚園・学校等が伝統芸能に関わっている／関わっていた、その他、接点はない
	Q4	お子様が伝統芸能の習い事・部活・サークルを始めたきっかけは何ですか。
	選択肢	子供が希望したら、子供の興味・関心を広げたいから、子どもの得意なことを増やしたいから、自身がやっている／やっていたから、自身が興味・関心があったから、家族がやっている／やっていたから、親戚・友人・知人がやっている／やっていたから、礼儀作法を身に着けるため、集中力・忍耐力を身に着けるため、その他
	Q5	あなたは以下の伝統芸能をこれまでに何回、鑑賞を行いましたか。 【質問項目：歌舞伎・日本音楽（三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫など）・能楽（能・狂言）・人形浄瑠璃文楽・日本舞踊・寄席の芸能（落語・講談・太神楽・漫才・奇術など）・雅楽・組踊・その他】
	選択肢	1回、2回、3回、4回、5～10回、11回以上
	Q6	前問で鑑賞された伝統芸能について、これまでに何回お子様と鑑賞しましたか。 【質問項目：歌舞伎・日本音楽（三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫など）・能楽（能・狂言）・人形浄瑠璃文楽・日本舞踊・寄席の芸能（落語・講談・太神楽・漫才・奇術など）・雅楽・組踊・その他】
	選択肢	0回、1回、2回、3回、4回、5～10回、11回以上
	Q7	あなたは以下の伝統芸能について、これまでに何回体験を行いましたか。習い事として行っていた場合は、「習い事として習っている/習っていた」を、プロである場合は「プロである/プロだった」を選択してください。 【質問項目：歌舞伎・日本音楽（三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫など）・能楽（能・狂言）・人形浄瑠璃文楽・日本舞踊・寄席の芸能（落語・講談・太神楽・漫才・奇術など）・雅楽・組踊・その他】
	選択肢	1回、2回、3回、4回、5～10回、11回以上、習い事として習っている/習っていた、プロである/プロだった
Q8	前問で回答された伝統芸能について、これまでに何回お子様と体験したことがありますか。 【質問項目：歌舞伎・日本音楽（三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫など）・能楽（能・狂言）・人形浄瑠璃文楽・日本舞踊・寄席の芸能（落語・講談・太神楽・漫才・奇術など）・雅楽・組踊・その他】	
選択肢	0回、1回、2回、3回、4回、5～10回、11回以上	
Q9	あなたが今後、お子様に体験させてみたい伝統芸能を選択してください。既にお子様が習っているものがある場合は、今後も継続して習わせたいものを選択してください。 【質問項目：今後、体験させてみたいもの・今後も継続して習わせたいもの】	
選択肢	歌舞伎の演技（セリフ・動きなど）、歌舞伎の立廻り（格闘の演技）、歌舞伎の衣裳・化粧、歌舞伎の音楽（唄・語り）、歌舞伎の音楽（三味線）、歌舞伎の音楽（打楽器）、能楽（能・狂言）、人形浄瑠璃文楽（太夫・三味線・人形）、日本舞踊、寄席の芸能（囃子・太神楽）、その他、特になし/習わしていない	

他の伝統芸能のイメージ・関心	Q10	あなたご自身の、伝統芸能に対するイメージをお答えください。
	選択肢	美しい、華やか、奥が深い、面白い、敷居が高い、退屈、誰でも楽しめる、1人でも楽しめる、内容が難しい、稽古が厳しい、身近、1人で鑑賞しづらい、世襲制、男性の職業、舞踊、音楽、演劇、礼儀作法が重んじられる、自分とは関係ない、その他
	Q11	あなたが次のうち、興味・関心があるものを選択してください。
選択肢		オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など、ポップス、ロック、ジャズ、民族音楽など、歌謡曲、演歌など、美術館、博物館、演劇、ミュージカル、バレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス、ストリートダンス、ジャズダンス、民俗舞踊、社交ダンス、演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品）、アニメーション映画、映画（アニメーション映画を除く）、歴史的建造物や遺跡、地域の伝統的な祭り、特にない
職業選択について	Q12	お客様の職業として重視する条件は何ですか。
	選択肢	休みが取りやすい、安定している、人間関係が良い、収入が高い、お客様の興味や好みに合っている、お客様の適性に合っている、社会や人に貢献できる、勤務地が近い、将来、無くなることのない仕事である、専門性を高めることができる、お客様が成長できる、社会的地位が高い、福利厚生が充実している、働く時間が自由である、親族や知人・友人が賛成してくれる、住み込みで働ける・寮がある、プロになるまでにお金がかからない、その他、特にない
	Q13	あなたは、お客様に伝統芸能の職業に就かせることを検討したことはありますか。また、お客様自身は伝統芸能の職業に就くことを検討していますか。 【質問項目：あなた・お客様】
	選択肢	具体的に検討している、具体的ではないが検討している、検討していなかったがこれから検討したい、過去に検討していたが今は検討していない、過去も今後も検討の予定はない、知らない/分からない
	Q14	あなたは、お客様が伝統芸能の職業に就くことに対してどう思いますか。
	選択肢	伝統芸能の職業に就いて欲しい、お客様が希望するなら伝統芸能の職業に就いてもよい、できれば伝統芸能の職業に就いて欲しくない、絶対に伝統芸能の職業に就いて欲しくない
	Q15	お客様に伝統芸能の職業に就いて欲しい、就いてもよいと考える理由は何ですか。
	選択肢	お客様が希望する進路に進んで欲しいから、自身が伝統芸能に興味・関心があるから、お客様に適性があると感じるから、やりがいのある仕事だと思うから、専門性を高められる仕事だと思うから、人と違う仕事に就いてほしいから、舞台に立つ仕事に就いてほしいから、音楽に関わる仕事に就いてほしいから、家族に薦められたから、親戚・友人・知人に薦められたから、家族に経験者がいるから、親戚・友人・知人に経験者がいるから、お客様の部活・サークル・習い事などの経験を活かせるから、安定しているから、お金をかけずになれるから、未経験から始められるから、長く続けられる職業だと思うから、その他
	Q16	お客様が伝統芸能の職業に就くことについて、あなたが不安に感じることは何ですか。
選択肢	お客様が他に希望している進路がありそう、お客様に進んで欲しい進路が他にある、始め方がわからない、お客様に適性があるかわからない、募集の頻度が少ない、募集している年齢が合わない、募集している性別が合わない、将来のキャリアイメージがつかない、プロになるまでにお金がかかりそう、収入が低そう・安定した仕事量が得られなさそう、周囲に反対される、将来性のある仕事かわからない、身体的・精神的な負担が大きそう、お客様が伝統芸能に興味がない、自身が伝統芸能に興味がない、プロになって活躍できるかわからない、長く続けることが難しいから、他の進路への選択肢がなくなってしまう、その他、特にない	
Q17	あなたがお客様に伝統芸能の職業に就いて欲しくないと考え理由は何ですか。	
選択肢	お客様が他に希望している進路があるから、お客様に進んで欲しい進路が他にあるから、始め方がわからないから、お客様に適性がないと感じるから、募集の頻度が少ないから、募集している年齢が合わないから、募集している性別が合わないから、将来のキャリアイメージがつかないから、プロになるまでにお金がかかりそうだから、収入が低そう・安定した仕事量が得られなさそうだから、周囲に反対されるから、将来性のある仕事かわからないから、身体的・精神的な負担が大きそうだから、お客様が伝統芸能に興味がないから、自身が伝統芸能に興味がないから、プロになって活躍できるかわからないから、長く続けることが難しいから、職業を決断するタイミングが早いから、他の進路への選択肢がなくなってしまうから、その他	
養成所の認知	Q18	あなたは、国立劇場養成所（伝統芸能の新たな担い手を養成する場所）を知っていますか。
	選択肢	知っている、知らない
	Q19	あなたは、国立劇場養成所を何で知りましたか。
	選択肢	伝統芸能公演会場内の掲示やパンフレット、美術館・博物館・コンサートホール内の掲示やパンフレット、学校内の掲示やパンフレット、習い事先での掲示やパンフレット、駅や電車の掲示やパンフレット、商業施設内の掲示やパンフレット、家族から聞いた、親戚・友人・知人から聞いた、学校・習い事の先生から聞いた、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、X(旧Twitter)、Instagram、YouTube、TikTok、ウェブサイトやブログ、その他
	Q20	あなたは、一般の人で経験が無くても国立劇場養成所の研修生に応募ができることを知っていますか。
選択肢	知っている、知らない	

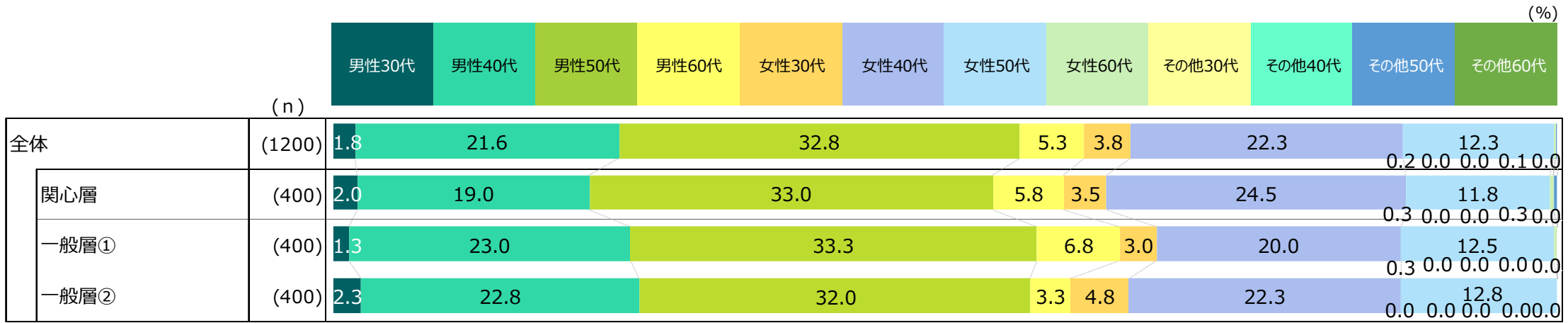
養成所に希望すること	Q21	あなたが伝統芸能をお子様の職業として考える上で知りたい情報は何か。（職業として考えていない場合は、考える場合を想像して回答してください。）
	選択肢	伝統芸能のプロになるための訓練を受けられる養成所の概要、養成所での研修期間や1日の研修スケジュール、養成所のカリキュラムや講師陣、養成所と学校・アルバイトとの両立、養成所のサポート体制（奨学金・宿舍・住宅費補助など）、プロになるために必要な能力、プロになった後のキャリアイメージ、プロになるまでの研修中にかかる費用、養成所修了後にプロになった場合の年収、研修修了後にプロになった場合の社会保険・福利厚生・休日日数、研修修了後にプロになった場合の具体的な仕事内容、研修修了後にプロになった場合の仕事のスケジュールの決まり方、養成所修了者の活躍、伝統芸能の世界の環境・気風・人間関係、定着率・離職率、その他
	Q22	あなたが伝統芸能の公演や体験、募集の情報を目にしたことがある、耳にしたことがある場面を選択してください。
	選択肢	伝統芸能公演会場内の掲示やパンフレット、美術館・博物館・コンサートホール内の掲示やパンフレット、学校内の掲示やパンフレット、習い事先での掲示やパンフレット、駅や電車の掲示やパンフレット、商業施設内の掲示やパンフレット、家族から聞いた、親戚・友人・知人から聞いた、学校・習い事の先生から聞いた、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、X(旧Twitter)、Instagram、YouTube、TikTok、ウェブサイトやブログ、その他
	Q23	あなたは、伝統芸能を学ぶ養成所がどのようなところであればお子様を連れていきたいですか。あてはまるものを全て選択してください。（職業として考えていない場合は、考える場合を想像して回答してください。）
選択肢	修了後は必ずプロになれる、人間国宝などの一流の講師から指導を受けられる、プロの公演で実習する機会がある、学校・アルバイトと両立できる、受講料がかからない、研修中に経済的支援（奨学金・宿舍・住宅費補助など）が受けられる、修了後もサポート（道具貸与・仕事の斡旋など）が受けられる、未経験から始められる、年齢制限なく始められる、研修生になる前に実際の研修を体験できる、その他	

1-2. 定量調査 調査結果

調査結果の留意点

- ・%の数値は、小数第2（または第3位）を四捨五入し、小数第1位（または第2位）までを表示しています。
そのため、各回答の数値の合計が100%とならない場合があります。
- ・基数となるべき実数はnとして掲載しています。
- ・回答の基数（サンプルサイズ）が少ない場合や大きな差異が見られない場合は、解説で当該集計結果に触れていない場合があります。
- ・一部設問を除き、単一回答（1つだけ選択）は帯グラフ、複数回答（2つ以上選択可能）は棒グラフで表しています。

性年代



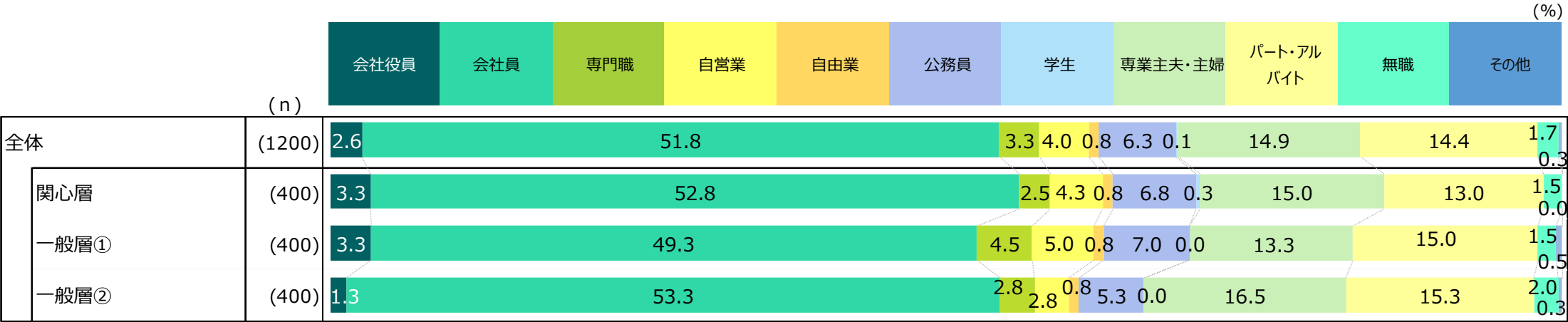
都道府県

(%)

	n	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県
全体	1200	3.3	0.5	0.6	2.1	0.6	0.6	1.3	1.6	1.0	1.8	7.3	6.6	14.1	11.2	1.8	0.4	0.5	0.3	0.5	1.5	1.2	2.3	5.7
関心層	400	3.0	0.5	0.3	1.5	0.3	0.5	0.8	1.5	0.5	1.3	8.8	7.0	16.0	11.5	1.5	0.5	0.3	0.3	0.3	1.5	1.8	2.3	4.5
一般層①	400	3.3	0.5	1.5	3.0	0.8	0.8	1.3	1.8	0.8	2.8	7.5	6.8	12.0	12.5	1.5	0.5	0.3	0.8	1.0	2.3	1.0	1.8	6.3
一般層②	400	3.5	0.5	0.0	1.8	0.8	0.5	1.8	1.5	1.8	1.5	5.8	6.0	14.3	9.5	2.3	0.3	1.0	0.0	0.3	0.8	0.8	3.0	6.3

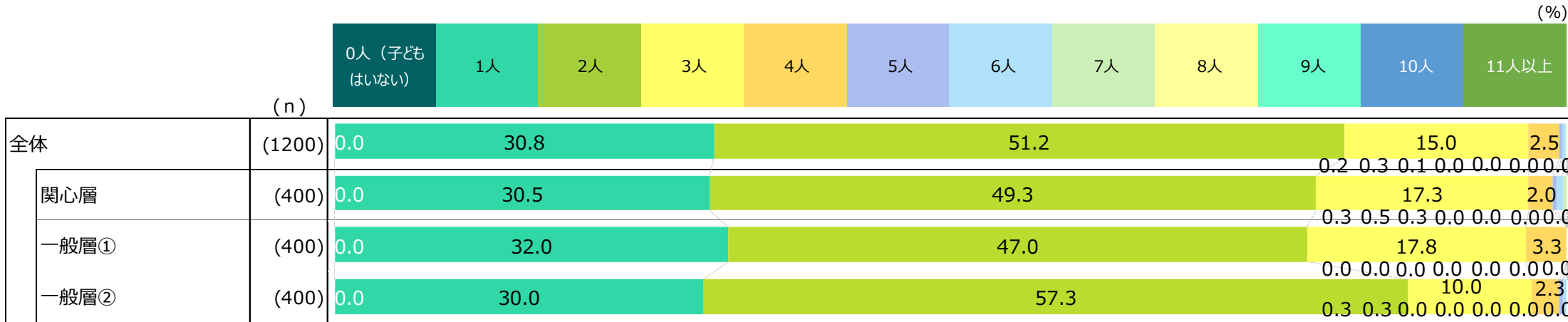
	n	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
全体	1200	1.4	0.9	2.8	7.7	5.2	1.2	0.8	0.3	0.3	1.9	2.3	0.8	0.5	0.3	0.6	0.2	3.4	0.3	0.4	0.5	0.2	0.5	0.7	0.3
関心層	400	1.0	1.0	3.0	7.5	5.3	1.8	0.5	0.8	0.5	0.8	2.8	1.0	0.5	0.5	0.5	0.3	2.5	0.0	0.3	1.5	0.0	0.8	1.0	0.5
一般層①	400	2.0	0.5	2.8	7.3	4.0	0.3	0.5	0.0	0.3	1.3	2.5	0.8	0.3	0.3	0.8	0.3	3.8	0.3	0.3	0.0	0.3	0.5	0.8	0.5
一般層②	400	1.3	1.3	2.5	8.3	6.3	1.5	1.5	0.3	0.0	3.8	1.8	0.8	0.8	0.3	0.5	0.0	4.0	0.5	0.8	0.0	0.3	0.3	0.3	0.0

職業



SC1. あなたはお子様をお持ちですか。お子様の人数を教えてください。（単一回答）

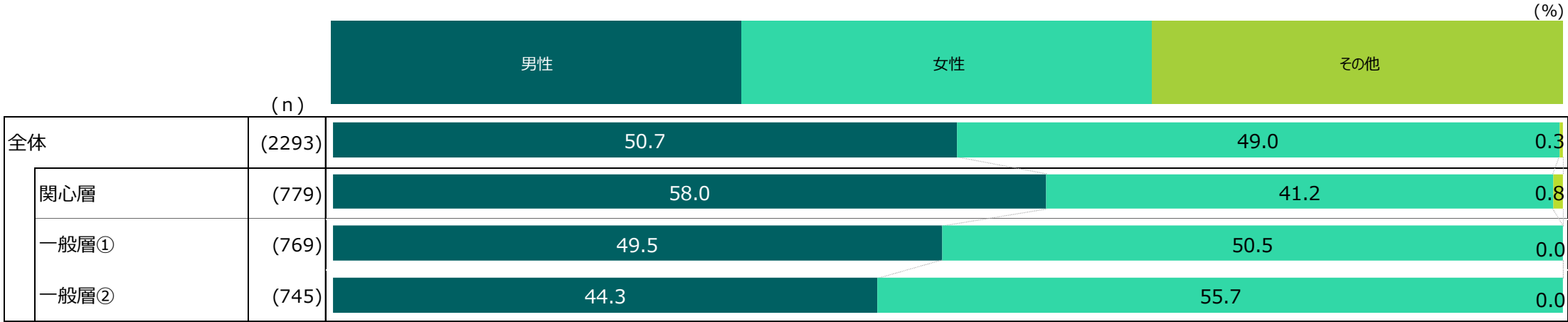
- いずれの層においても「2人」が5割程度と最も高く、次いで「1人」が3割程度となっている。また、96%以上が1～3人のいずれかを回答している。
- 一般層②では、他の層と比較して「2人」が8ポイント以上高い一方で、「3人」が7ポイント以上低い。



◆回答者の子供を合算して見ると、男女比率はおおよそ1：1となっている。関心層については男性が、一般層については女性がやや多くなっている。

SC2. お子様の性別を選択してください。
(単一回答)

※複数の子供をもつ対象者には全員分について聴取しており、
下記グラフではそれらを合算した子供の人数を記載。

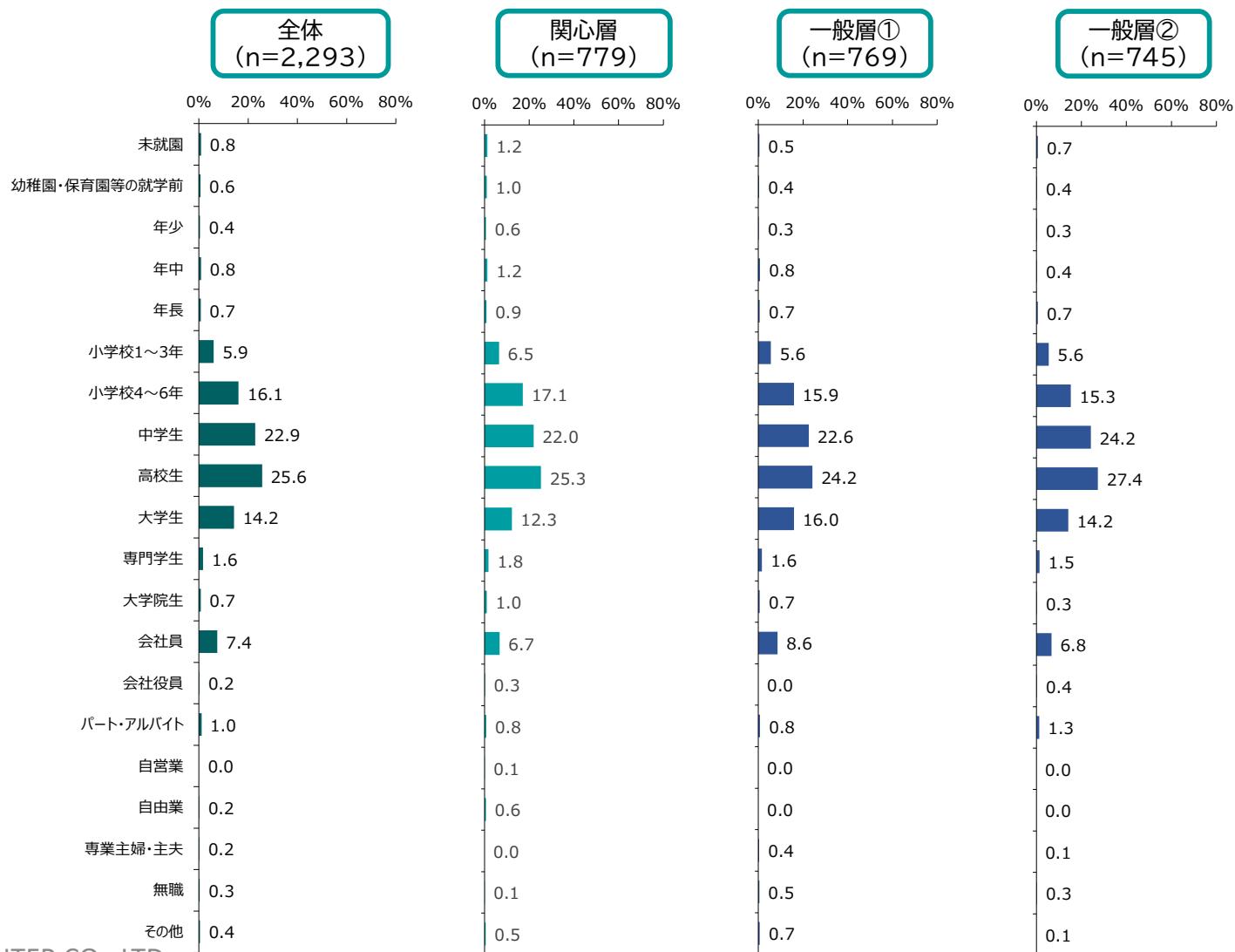


◆回答者の子供を合算して見ると、関心層、一般層いずれも高校生が最も多くなっており、各層で同様の傾向となっている。

SC3. お子様の学年または職業を選択してください。

※複数の子供をもつ対象者には全員分について聴取しており、下記グラフではそれらを合算した子供の人数を記載。

(単一回答)

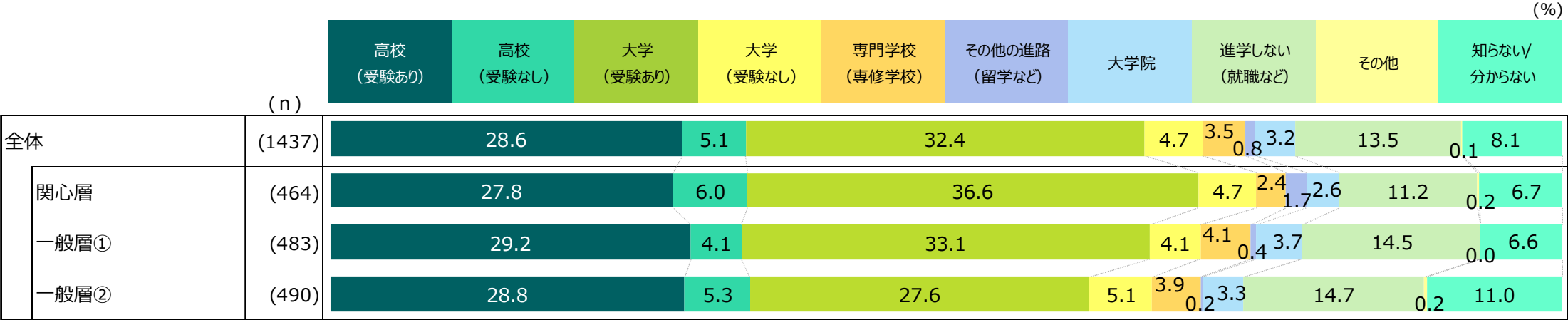


◆各層におけるボリュームゾーンは、関心層と一般層①では「大学（受験あり）」、一般層②では「高校（受験あり）」となっている。
関心層、一般層①②の間で大きな差異はみられない。

SC4.（中学生以上のお子様をもつ方）お子様の次の進学予定について、もっともあてはまるものを選択してください。

（単一回答）

※子供の学年が「中学生」「高校生」「大学生」の人のみ回答。
※複数の子供をもつ対象者には全員分について聴取しており、
下記グラフではそれらを合算した子供の人数を記載。

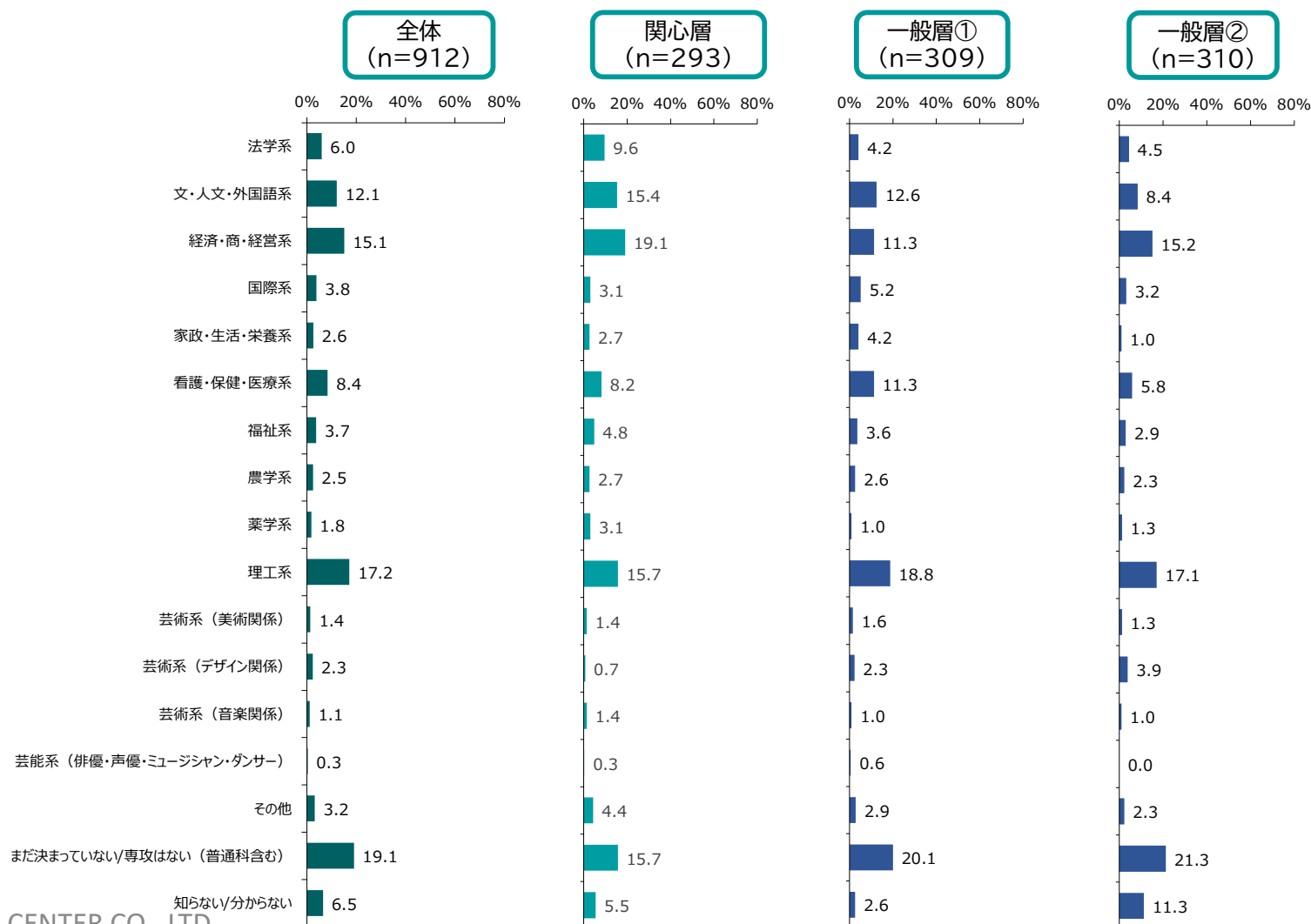


◆各層におけるボリュームゾーンは、関心層では「経済・商・経営系」、一般層①②では「まだ決まっていない/専攻はない（普通科含む）」となっている。

※子供の学年が「高校生」「大学生」の人のみ回答。
※複数の子供をもつ対象者には全員分について聴取しており、下記グラフではそれらを合算した子供の人数を記載。

SC5.（高校生以上のお子様をもつ方）お子様の現在の高校、大学における専攻を教えてください。

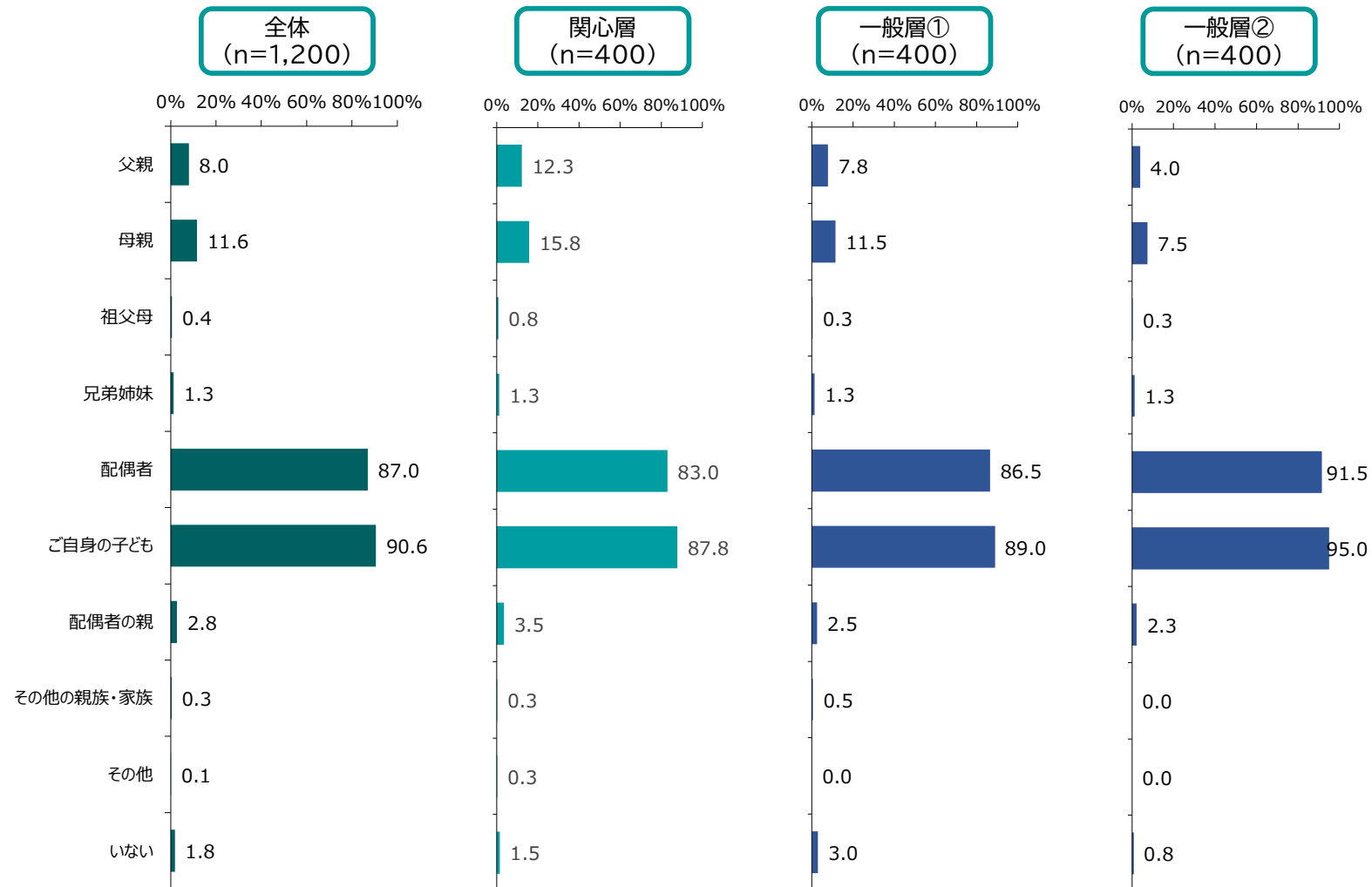
（複数回答）



◆いずれの層においても8割以上が「ご自身の子ども」「配偶者」と同居している。

SC6.あなたと同居の家族を選択してください。

(複数回答)

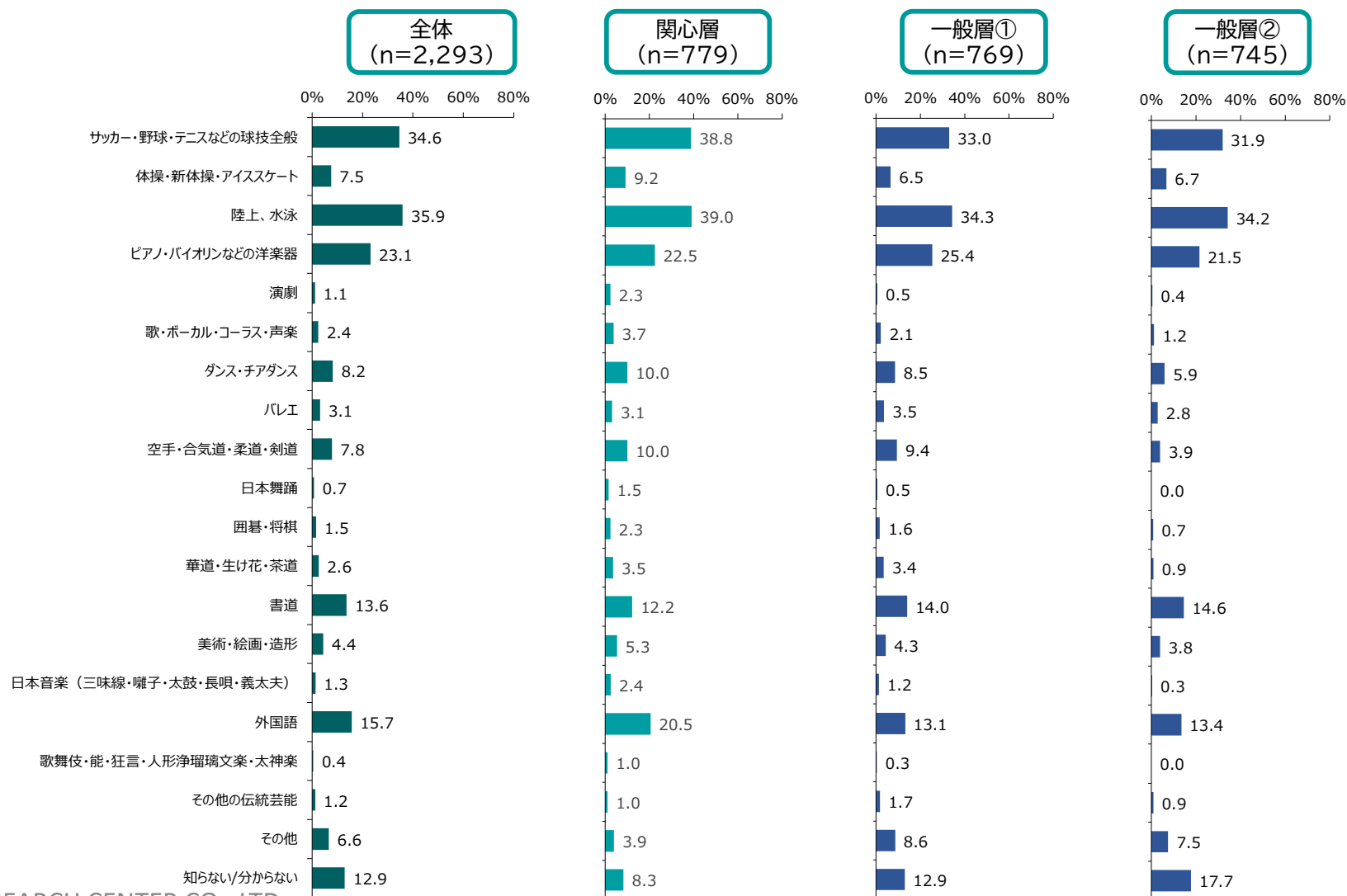


- ◆いずれの層でもボリュームゾーンは「陸上・水泳」となっている。
- ◆関心層については、一般層①②と比較して「外国語」「サッカー・野球・テニスなどの球技全般」が5ポイント以上高くなっている。
また、伝統芸能に関する項目では、関心層が占める割合が高くなっており、「歌舞伎・能・狂言・人形浄瑠璃文楽・太神楽」では80.0%、「日本舞踊」では75.0%、「日本音楽（三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫）」では63.3%を占めている。
- ◆一般層②においては、「空手・合気道・柔道・剣道」が他の層と比較して5ポイント以上低くなっている。

SC7 .あなたのお子様がこれまでに行ったことがある習い事・部活・サークルを選択してください。

(複数回答)

※複数の子供をもつ対象者には全員分について聴取しており、下記グラフではそれらを合算した子供の人数を記載。

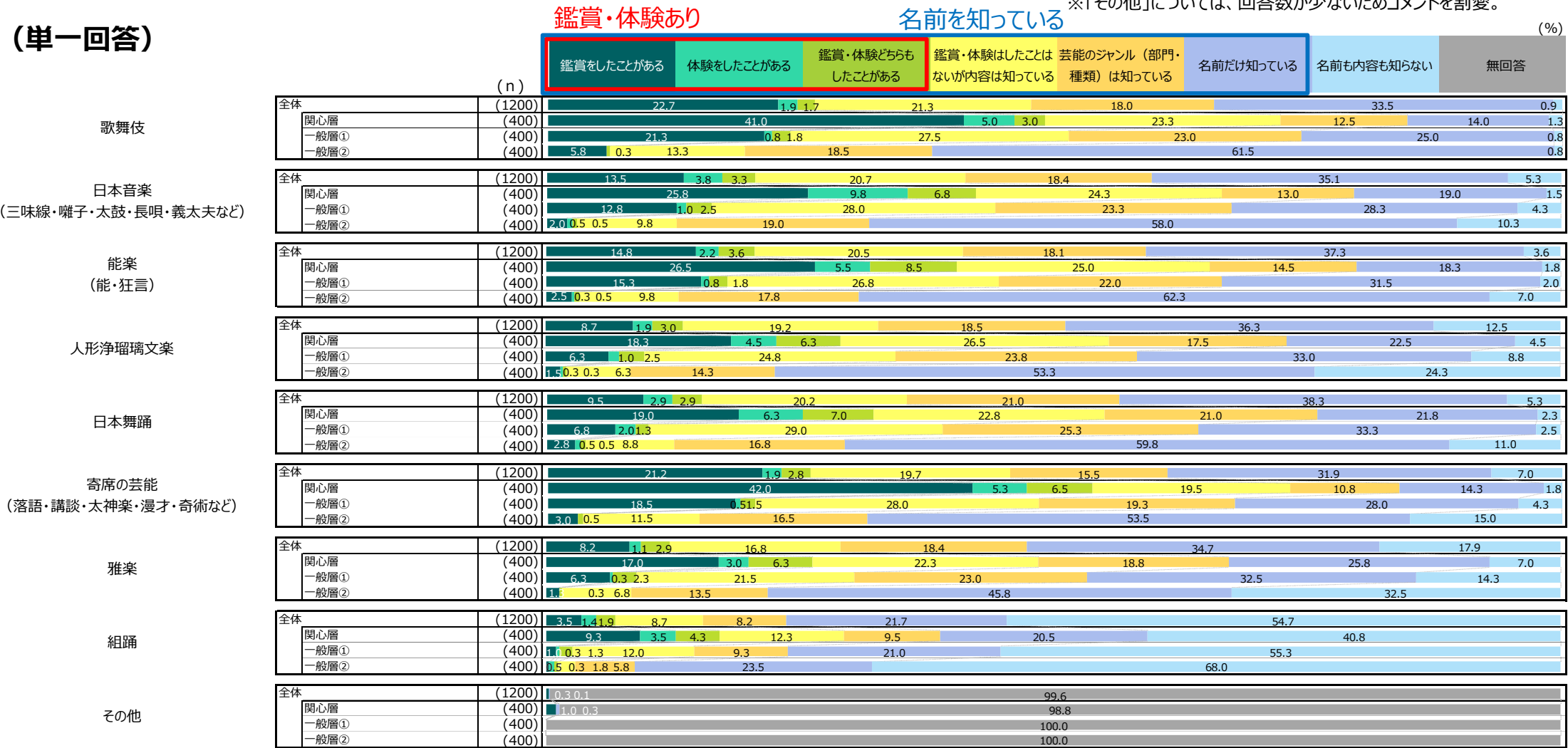


- ◆ 関心層については、組踊を除いた分野において90%以上が名前を知っており、鑑賞または体験をした割合が最も高いのは「寄席の芸能（落語・講談・太神楽・漫才・奇術など）」で5割以上となっている。
- ◆ 一般層①については、組踊を除いた分野において85%以上が名前を知っており、鑑賞または体験をした割合が最も高いのは「歌舞伎」で2割以上となっている。
- ◆ 一般層②については組踊を除いた分野において65%以上が名前を知っており、鑑賞または体験をした割合が最も高いのは「歌舞伎」で6%程度となっている。

SC8.あなたは以下の伝統芸能を知っていますか。

※全分野において「名前も内容も知らない」と回答した対象者は除外。
※「その他」については、回答数が少ないためコメントを割愛。

(単一回答)

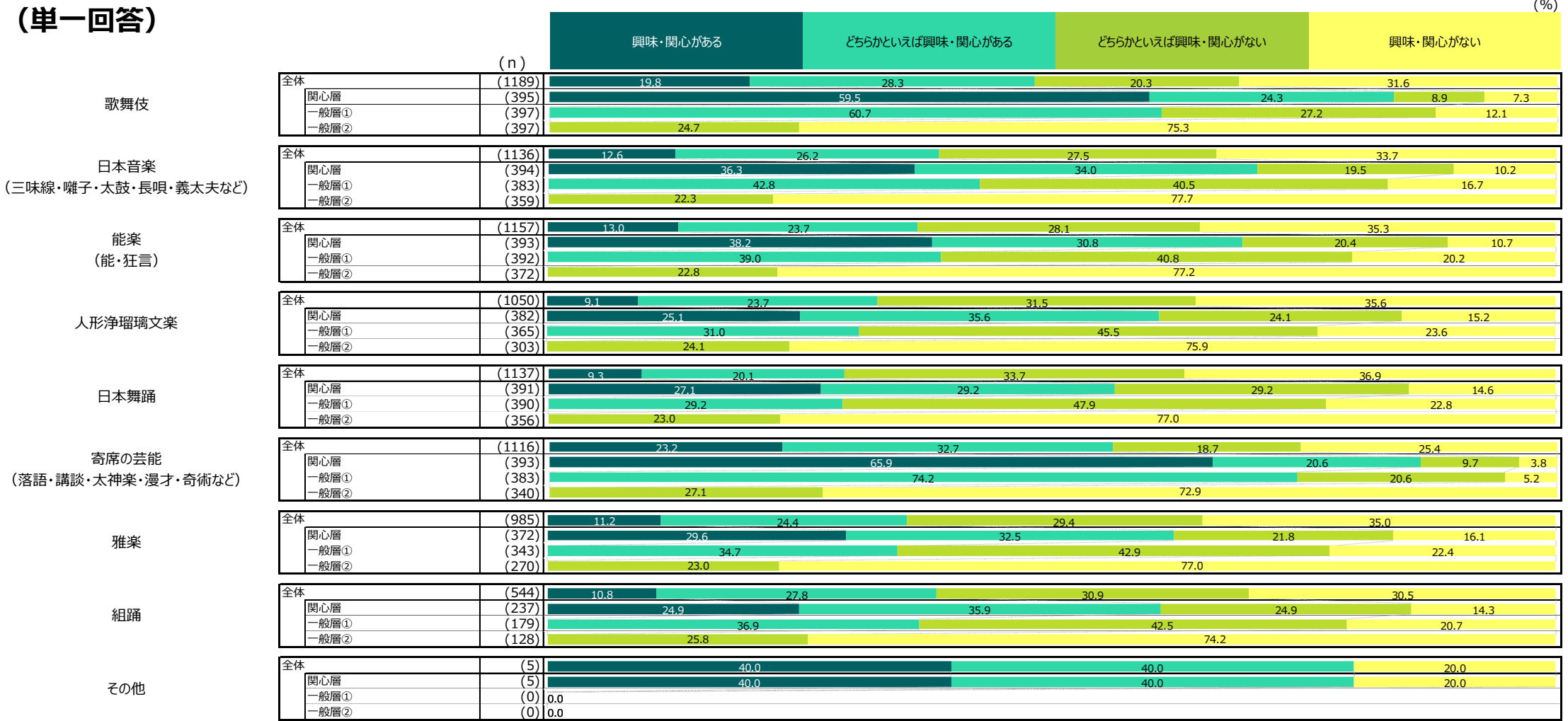


- ◆ 関心層において、「興味・関心がある」と回答した割合が最も高い分野は寄席の芸能で6割以上である一方で、最も低い分野は組踊で24.9%となっている。いずれの分野においても5割以上が「興味・関心がある」または「どちらかといえば興味・関心がある」と回答している。
- ◆ 一般層①において、「どちらかといえば興味・関心がある」と回答した割合が最も高い分野は寄席の芸能で7割以上となり、最も低い分野は日本舞踊で約3割となっている。
- ◆ 一般層②においては、いずれの分野でも7割以上が「興味・関心がない」と回答しており、分野間での差が小さい。

SC9.あなたは以下の伝統芸能に興味・関心はありますか。

※全分野において「名前も内容も知らない」と回答した対象者は除外。
※「その他」については、回答数が少ないためコメントを割愛。

(単一回答)



【あなた】

- ◆ 関心層については、「その他」を除くすべての趣味において一般層①②と比較して割合が高くなっている。特に、「ライブ観戦」「演芸・演劇・舞踊鑑賞」においては15ポイント以上、「美術・絵画・造形・美術鑑賞」「歌・ボーカル・コーラス・声楽」「ブログやSNS投稿」「スポーツ観戦」においては10ポイント以上高くなっている。
- ◆ 一般層①と一般層②で比較すると、「映画・アニメ鑑賞」「ポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞」「読書」「スポーツ観戦」において10ポイント以上の差がある。

【お子様】

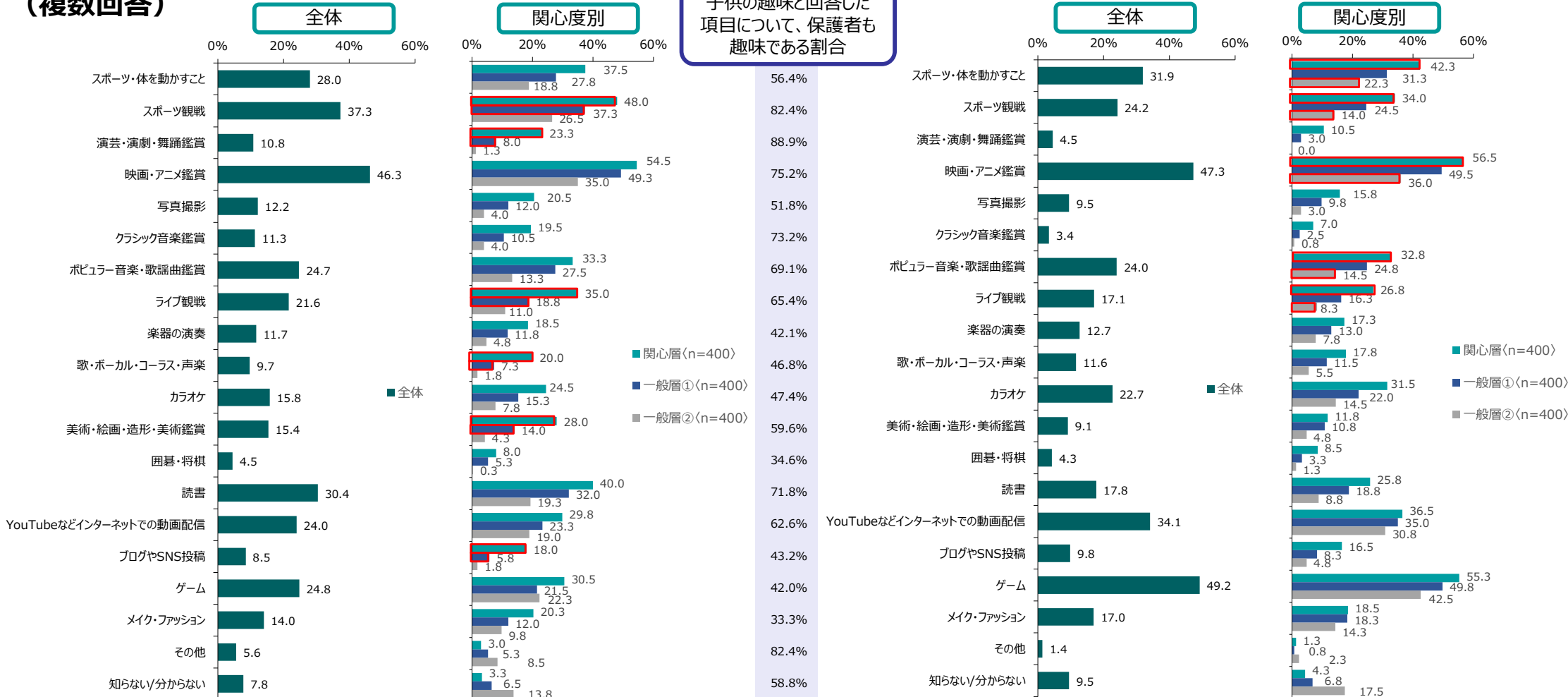
- ◆ 子供の趣味を把握している人の割合は、関心層（95.7%）、一般層（93.2%）、一般層②（82.5%）となっており、関心度が高い層ほど把握している割合が高い。
- ◆ 関心層については、「映画・アニメ鑑賞」「スポーツ・体を動かすこと」「スポーツ観戦」において一般層②と比較して20ポイント以上高く、「ポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞」「ライブ観戦」についても18ポイント以上高い。主に、鑑賞・観戦を行う趣味は関心層と一般層②との差が大きくなっている。
- ◆ 「演芸・演劇・舞踊鑑賞」「スポーツ観戦」「映画・アニメ鑑賞」「クラシック音楽鑑賞」などの観戦・鑑賞を行う趣味について、子供が趣味としている人のうち、7割以上が保護者も趣味としており、保護者の趣味が子供の趣味に影響を与えていることが窺える。

Q1.あなたとお子様の趣味をそれぞれ選択してください。（お子様が複数いる場合は全てのお子様を含めて選択してください。）

（複数回答）

【あなた】

【お子様】



- ◆いずれの層においても上位4位までは「LINE」「YouTube」「X（旧Twitter）」「Instagram」となっている。「LINE」「YouTube」についてはいずれの層でも6割以上が利用しており、それ以外の媒体については関心層が高い層ほど利用している割合が高くなっている。
- ◆関心層が一般層①②と比較して最も差が大きい媒体は「X（旧Twitter）」で、関心層では半数以上の利用がある一方で一般層①②では37%程度にとどまる。また、「Instagram」「Facebook」については、関心層が一般層①よりも10ポイント以上、一般層②よりも20ポイント程度高くなっている。「TikTok」についても、関心層は一般層①②よりも10ポイント近く高くなっている。

Q2. あなたが普段利用しているSNSは何ですか。あてはまるものを全て選択してください。

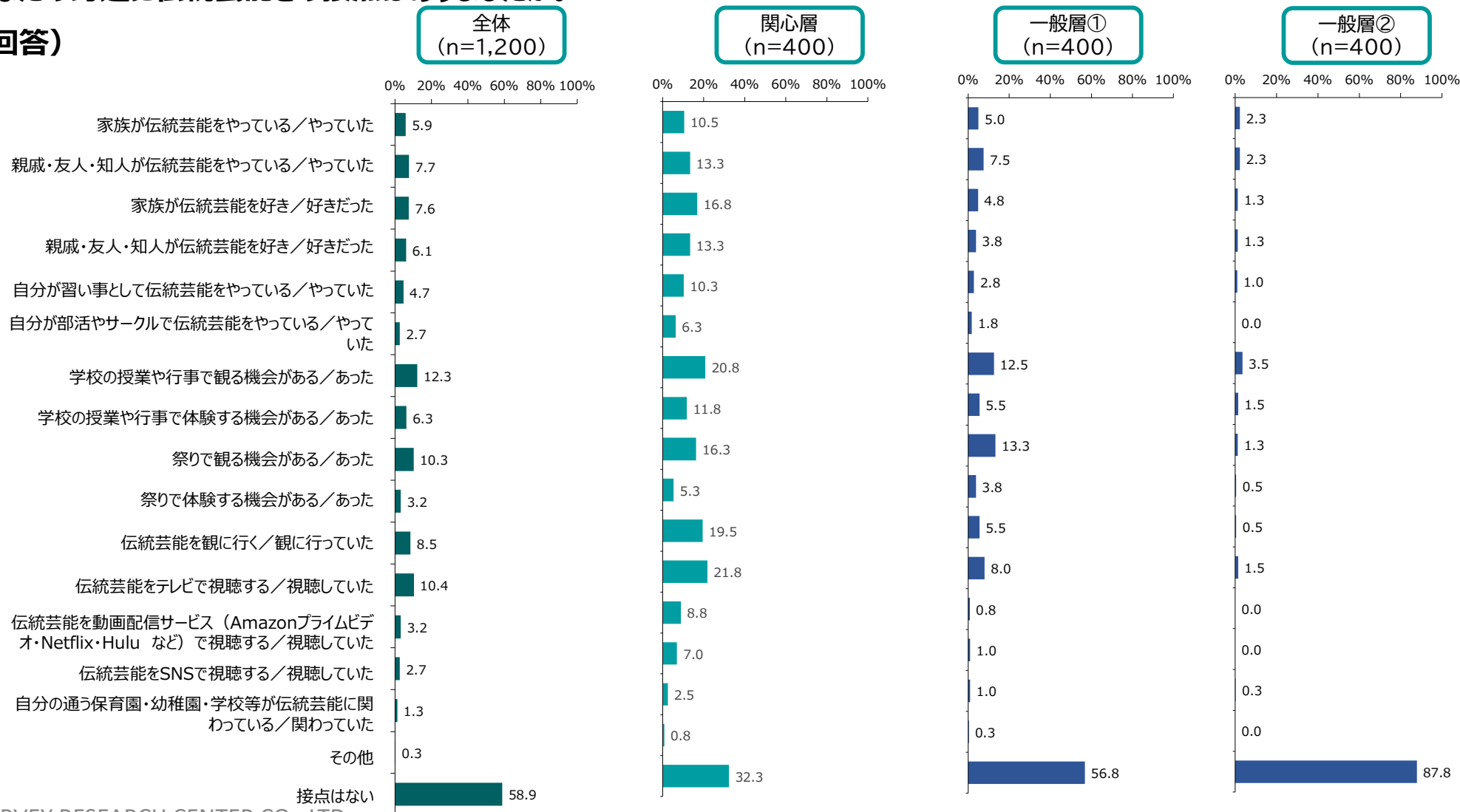
（複数回答）



- ◆身近に伝統芸能との接点があった割合は、関心層では67.7%、一般層①では43.2%、一般層②では12.2%と、関心度が高い層ほど接点があると回答した割合が高く、セグメント間の差も大きい。関心層では、「伝統芸能を観に行く／観に行っていた」「伝統芸能をテレビで視聴する／視聴していた」「家族が伝統芸能を好き／好きだった」において一般層①②よりも10ポイント以上高くなっている。
- ◆各層において、接点があった場所として割合が最も高かったのは、関心層では「伝統芸能をテレビで視聴する／視聴していた(21.8%)」、一般層①では「祭りで観る機会がある／あった(13.3%)」、一般層②では「学校の授業や行事で観る機会がある／あった(3.5%)」となっている。ただし、「学校の授業や行事で観る機会がある／あった」については、関心層が一般層①②よりも8ポイント以上高く、関心層は学校の授業で観たり体験したりする割合も高いことがわかる。

Q3. あなたの身近に伝統芸能との接点がありましたか。

(複数回答)

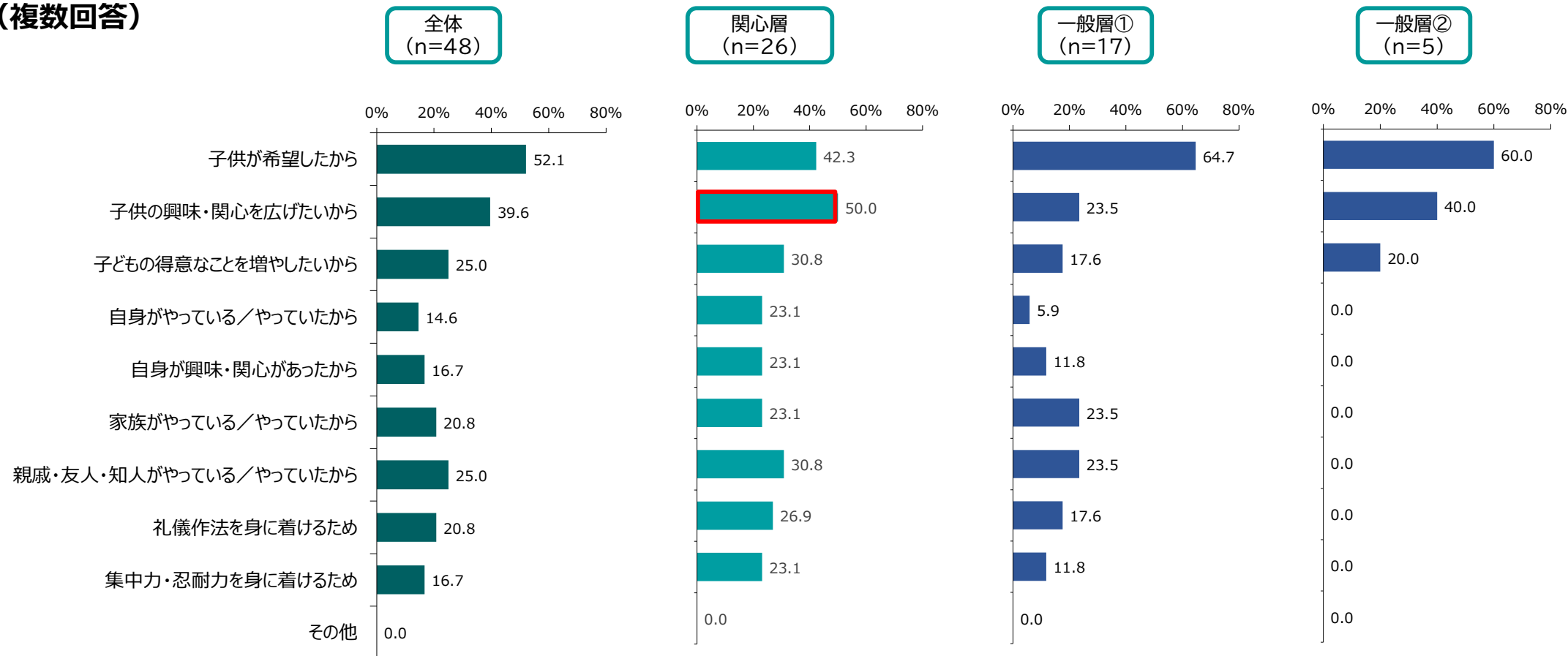


- ◆全体で見ると、「子どもが希望したから」が半数以上と最も高く、次いで「子供の興味・関心を広げたいから」が39.6%、「子どもの得意なことを増やしたいから」「親戚・友人・知人がやっている／やっていたから」が25.0%となっている。
- ◆一般層では、「子どもが希望したから」が最も高くなっている一方で、関心層においては「子供の興味・関心を広げたいから」が最も高くなっている。関心層では、子供だけでなく保護者の希望が習い事・部活・サークルのきっかけとなっている割合が高く、保護者の興味・関心が影響を与えていることが窺える。

Q4. お子様が伝統芸能の習い事・部活・サークルを始めたきっかけは何ですか。

※サンプルサイズが30以下は参考値。
※子供が伝統芸能の習い事を行っている対象者のみ回答。

(複数回答)

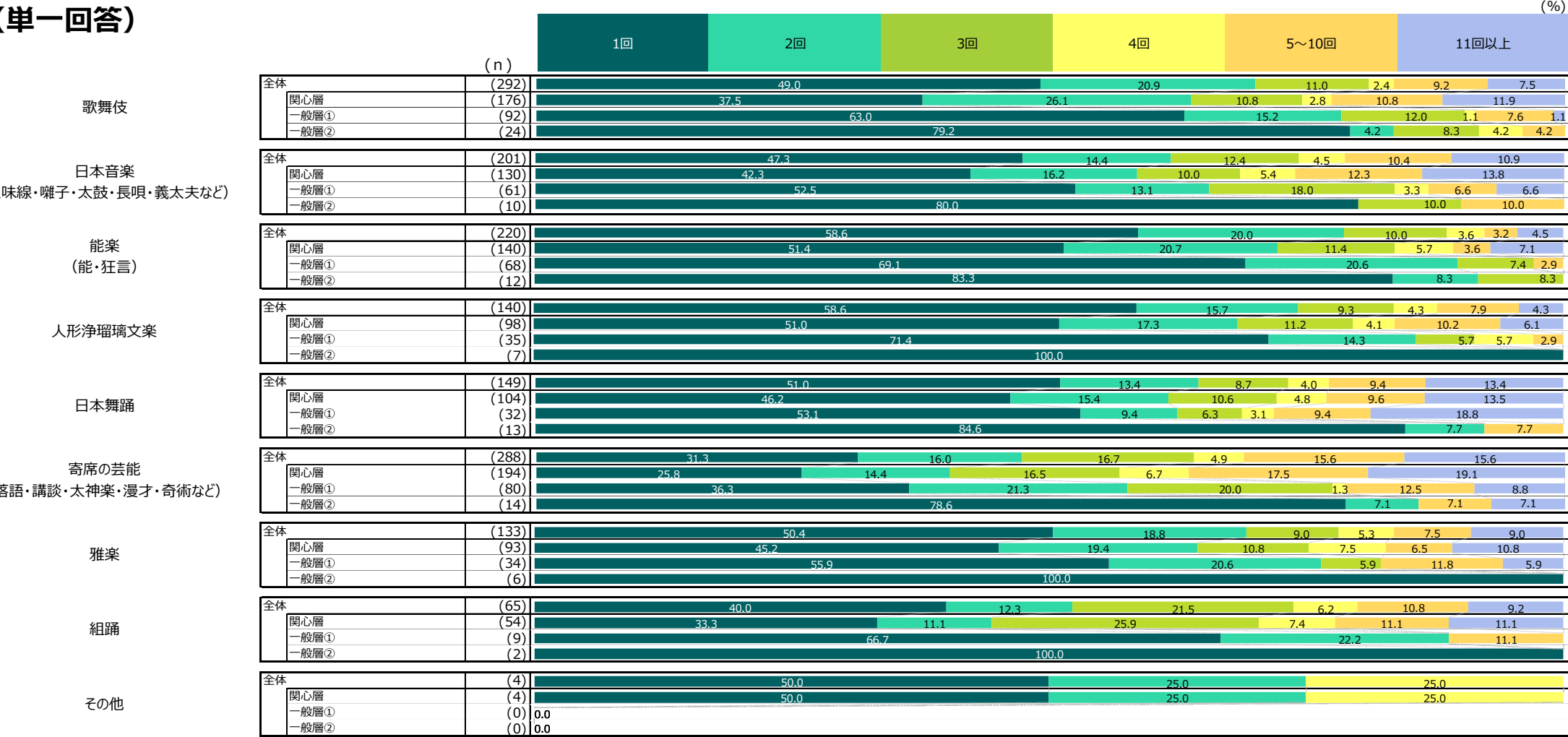


- ◆いずれの分野においても、関心度が高くなるにつれて2回以上鑑賞を行う割合が高くなっている。
- ◆2回以上鑑賞を行っている割合は、関心層では4割以上、一般層①では2割以上、一般層②では2割程度以下となっている。また、2回以上鑑賞を行う割合が高い分野は、いずれの層においても寄席の芸能となっている。

Q5. あなたは以下の伝統芸能をこれまでに何回、鑑賞を行いましたか。

※各分野において、鑑賞したことがある対象者のみ回答
※サンプルサイズが30以下は参考値。

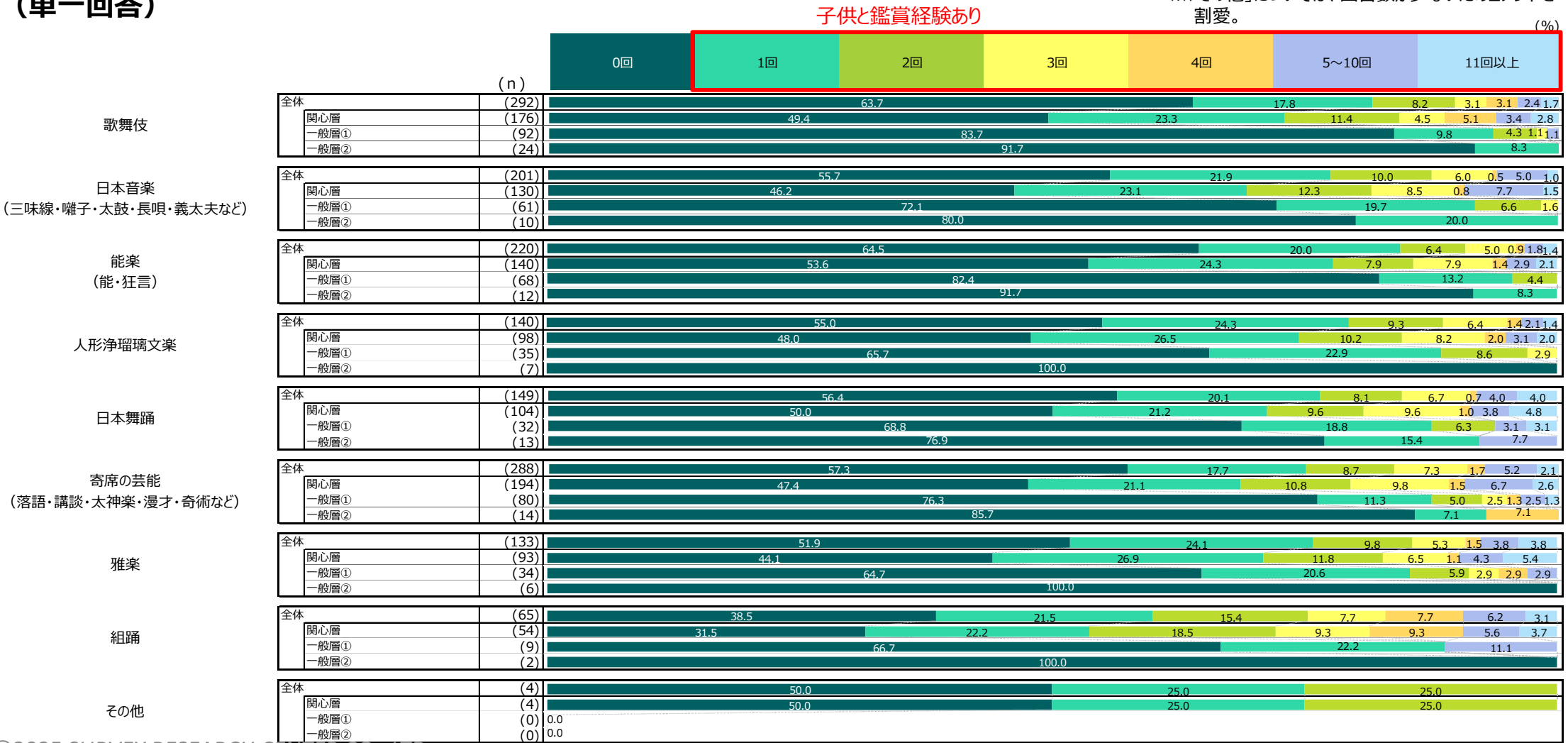
(単一回答)



- ◆ 子供と鑑賞したことがあると回答した割合は、関心層ではいずれも半数程度となっており、関心度が低くなるにつれて割合も低くなっている。
- ◆ 鑑賞したことがある割合が最も高い分野は、関心層では組踊、一般層①では雅楽、一般層②では日本舞踊となっている。
- ◆ 関心層については、3回以上鑑賞を行っている割合がいずれの分野においても15%程度以上となっている一方で、一般層①②については1割程度以下となっている。

Q6. 前問で鑑賞したことがある伝統芸能について、これまでに何回お子様と鑑賞したことがありますか。
(単一回答)

※各分野において、鑑賞したことがある対象者のみ回答
※サンプルサイズが30以下は参考値。
※「その他」については、回答数が少ないためコメントを割愛。

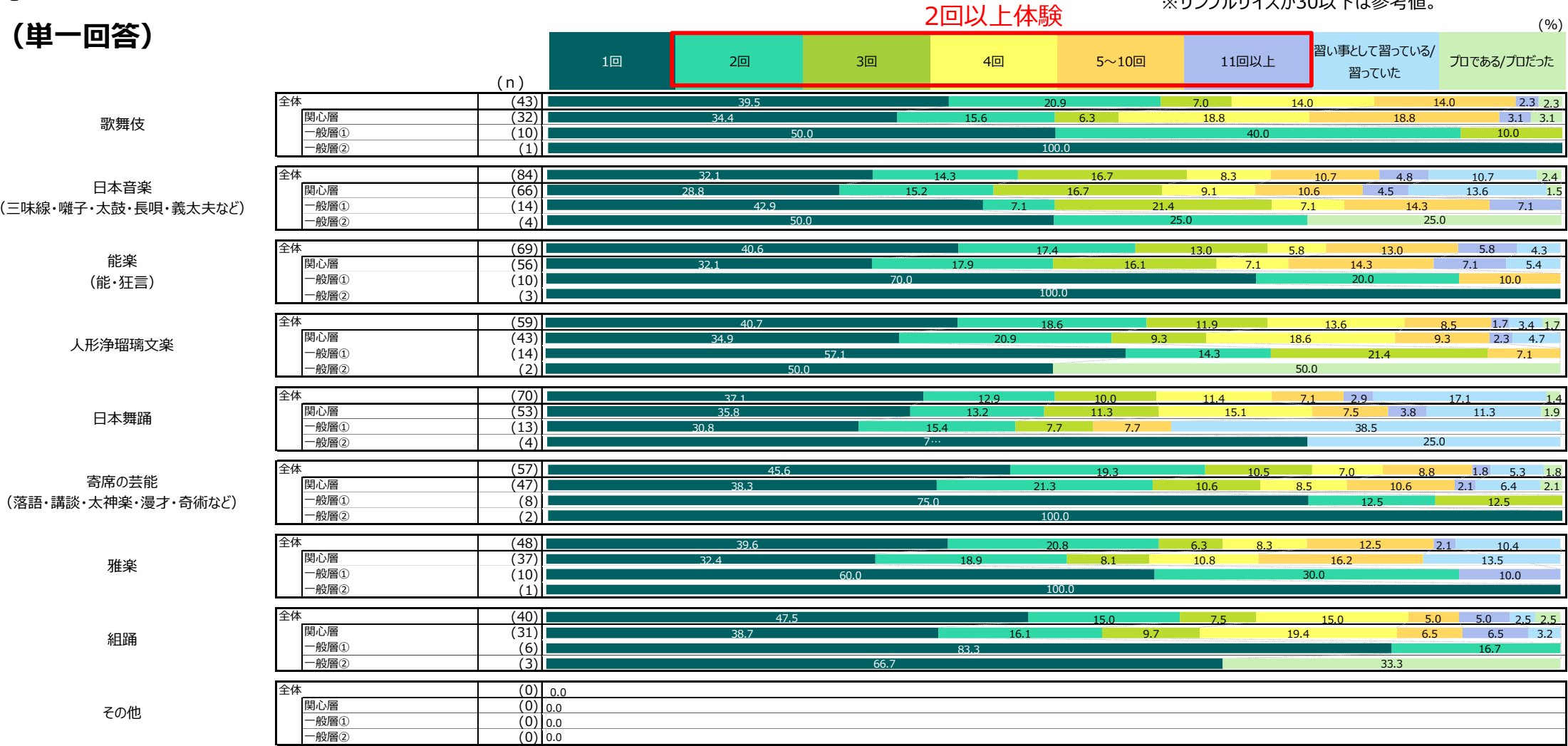


◆2回以上と回答した割合は、関心層ではいずれの分野でも5～6割程度であり、最も割合が高い分野は歌舞伎となっている。また、一般層①では日本音楽が57.0%と最も高く、組踊が16.7%と最も低い。

Q7. あなたは以下の伝統芸能について、これまでに何回体験を行いましたか。

※各分野において、体験したことがある対象者のみ回答。
※サンプルサイズが30以下は参考値。

(単一回答)

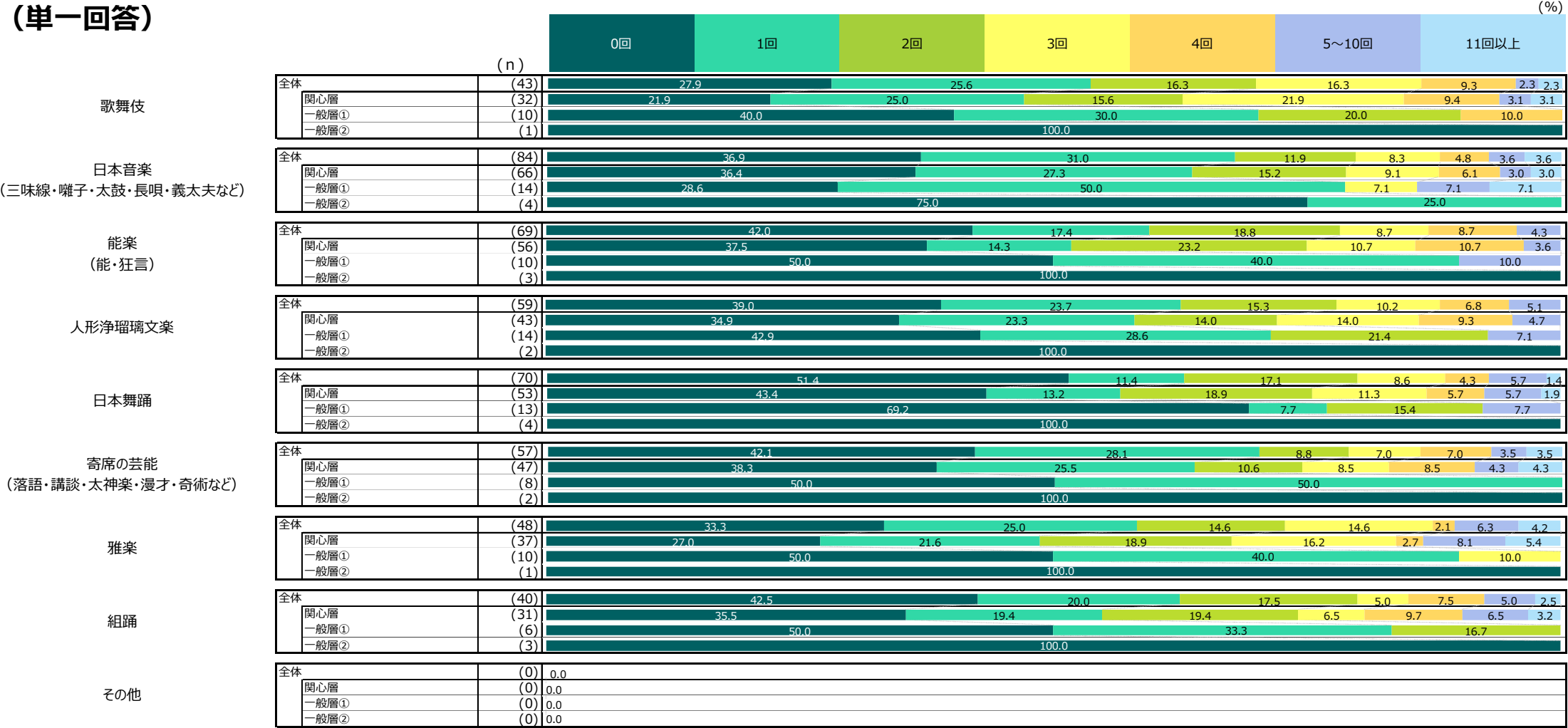


- ◆ 子供と体験したことがあると回答した割合は、関心層ではいずれも半数以上となっており、日本音楽を除き、関心度が低くなるにつれて割合も低くなっている。
- ◆ 体験したことがある割合が最も高い分野は、関心層では歌舞伎、一般層①②では日本音楽となっている。
- ◆ 関心層については、3回以上体験を行っている割合がいずれの分野においても2割以上となっており、一般層①②については日本音楽(21.3%)を除き1割以下となっている。

Q8. 前問で回答された伝統芸能について、これまでに何回お子様と体験したことがありますか。

※各分野において、体験したことがある対象者のみ回答。
※サンプルサイズが30以下は参考値。

(単一回答)



- ◆ 子供に何かしらの体験をさせてみたいと回答した割合は、関心層では55.2%、一般層①では24.2%、一般層②では3.0%となっており、関心が高い層ほど子供に体験させてみたいと感じていることが窺える。
- ◆ 関心層においては、「歌舞伎の演技（セリフ・動きなど）（24.0%）」が最も高く、次いで「歌舞伎の音楽（三味線）（19.8%）」「歌舞伎の立廻り（格闘の演技）（16.5%）」と歌舞伎に関する体験が高くなっている。
- ◆ 一般層①については関心層と同様に「歌舞伎の演技（セリフ・動きなど）（5.8%）」が最も高く、次いで「日本舞踊（5.5%）」となっている。一般層②においても「日本舞踊（1.0%）」が最も高くなっており、イメージが付きやすい内容において割合が高くなっていることが考えられる。

Q9. あなたが今後、お子様に体験させてみたい伝統芸能を選択してください。【今後、体験させてみたいもの】

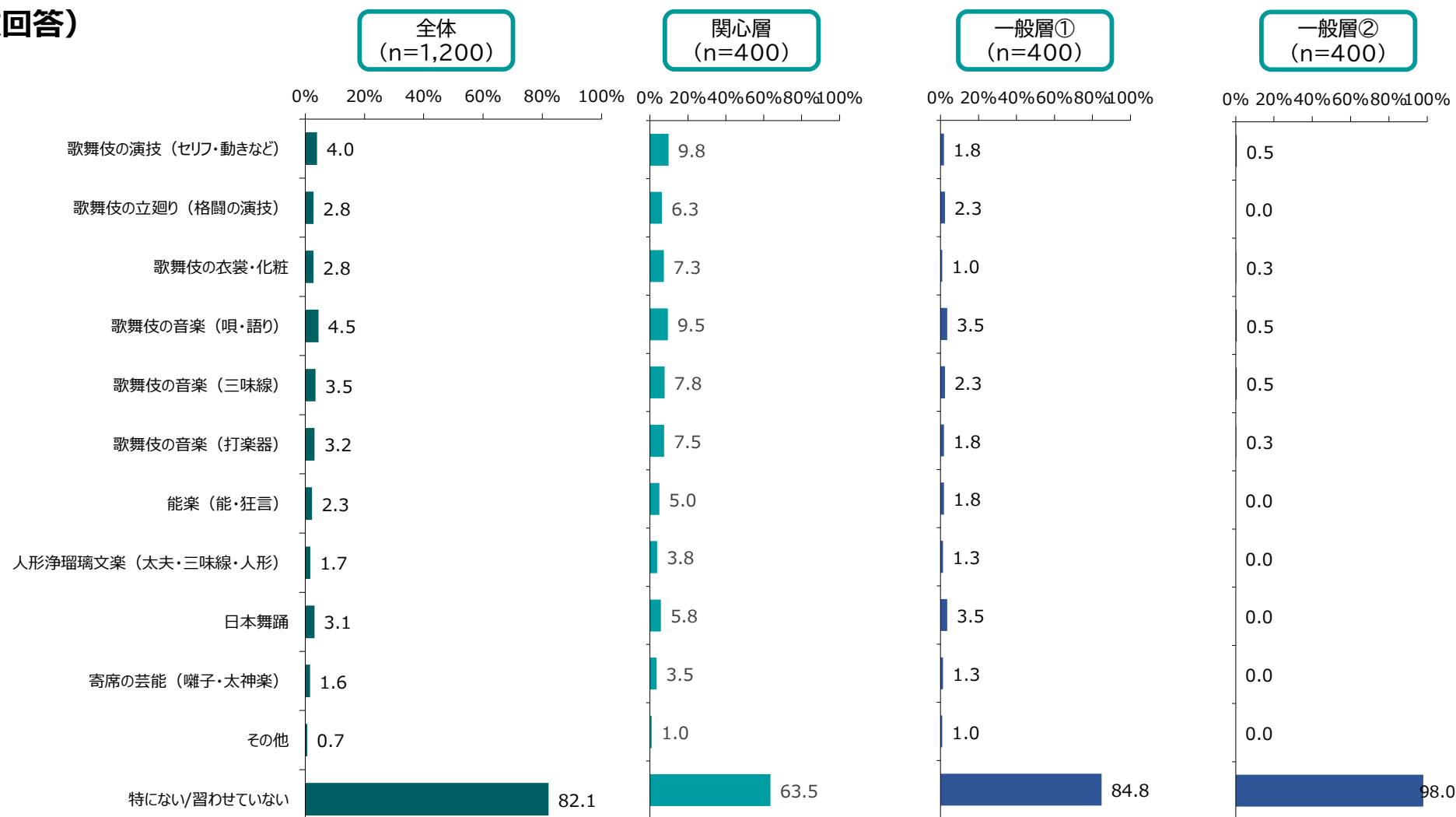
（複数回答）



- ◆ 子供が伝統芸能を習っている割合は関心層では36.5%、一般層①では15.2%、一般層②では2.0%となっており、関心が高い層ほど割合が高くなっている。
- ◆ 各層で割合が高いものとしては、関心層では「歌舞伎の演技（セリフ・動きなど）（9.8%）」「歌舞伎の音楽（唄・語り）（9.5%）」、一般層①では「歌舞伎の音楽（唄・語り）（3.5%）」「日本舞踊（3.5%）」、一般層②では「歌舞伎の演技（セリフ・動きなど）（0.5%）」「歌舞伎の音楽（唄・語り）（0.5%）」「歌舞伎の音楽（三味線）（0.5%）」となっている。

Q9. あなたが今後、お子様に体験させてみたい伝統芸能を選択してください。【今後も継続して習わせたいもの】

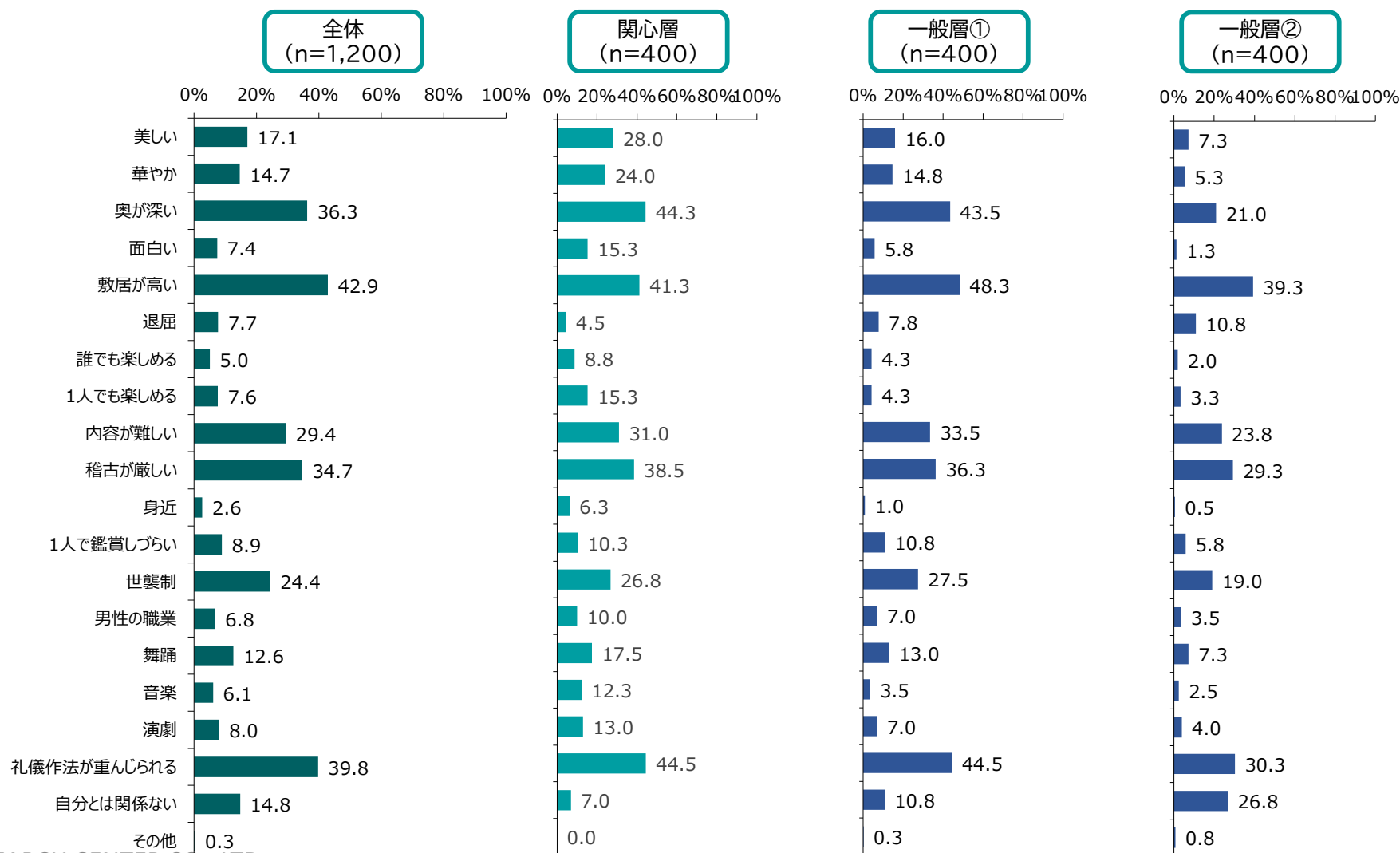
（複数回答）



- ◆ 関心層は「礼儀作法が重んじられる」が最も高く、次いで「奥が深い」となっているのに対し、一般層①②では「敷居が高い」が最も高く、次いで「礼儀作法が重んじられる」となっている。
- ◆ 「自分とは関係ない」と回答した割合は、関心層では7.0%、一般層①では10.8%、一般層②では26.8%と興味関心度が低くなるにつれて割合が高くなっている。また、「退屈」についても、関心度が低くなるにつれて割合が高くなっている。
- ◆ 関心層と一般層①で差が大きかった項目は、「美しい」「1人でも楽しめる」で関心層が10ポイント以上高い。一方で、一般層①では「敷居が高い」が関心層と比較して7.0ポイント高くなっている。

Q10. あなたご自身の、伝統芸能に対するイメージをお答えください。

(複数回答)



- ◆選択肢として挙げている項目について、何かしらに興味・関心をもっている割合は、関心層で94.5%、一般層①で88.0%、一般層②で62.0%となっている。また、全項目において関心層、一般層①、一般層②の順に高くなっており、関心が高い層ほど芸術・歴史関連の事柄に興味・関心があることが窺える。
- ◆いずれの層においても、「映画（アニメーション映画を除く）」「ポップス、ロック、ジャズ、民族音楽など」が上位2項目となっており、関心層と一般層①が一般層②よりも10ポイント以上高くなっている。
- ◆関心層と一般層①の差が最も大きい項目は、「演芸（落語、講談、浪曲、漫才・コント、奇術・手品）」で22.0ポイントの差がある。また、「演劇」「美術館」でも15ポイント以上の差がある。一般層①②の間では、「映画（アニメーション映画を除く）」「歴史的建造物や遺跡」において20ポイント前後の差がある。

Q11. あなたが次のうち、興味・関心があるものを選択してください。

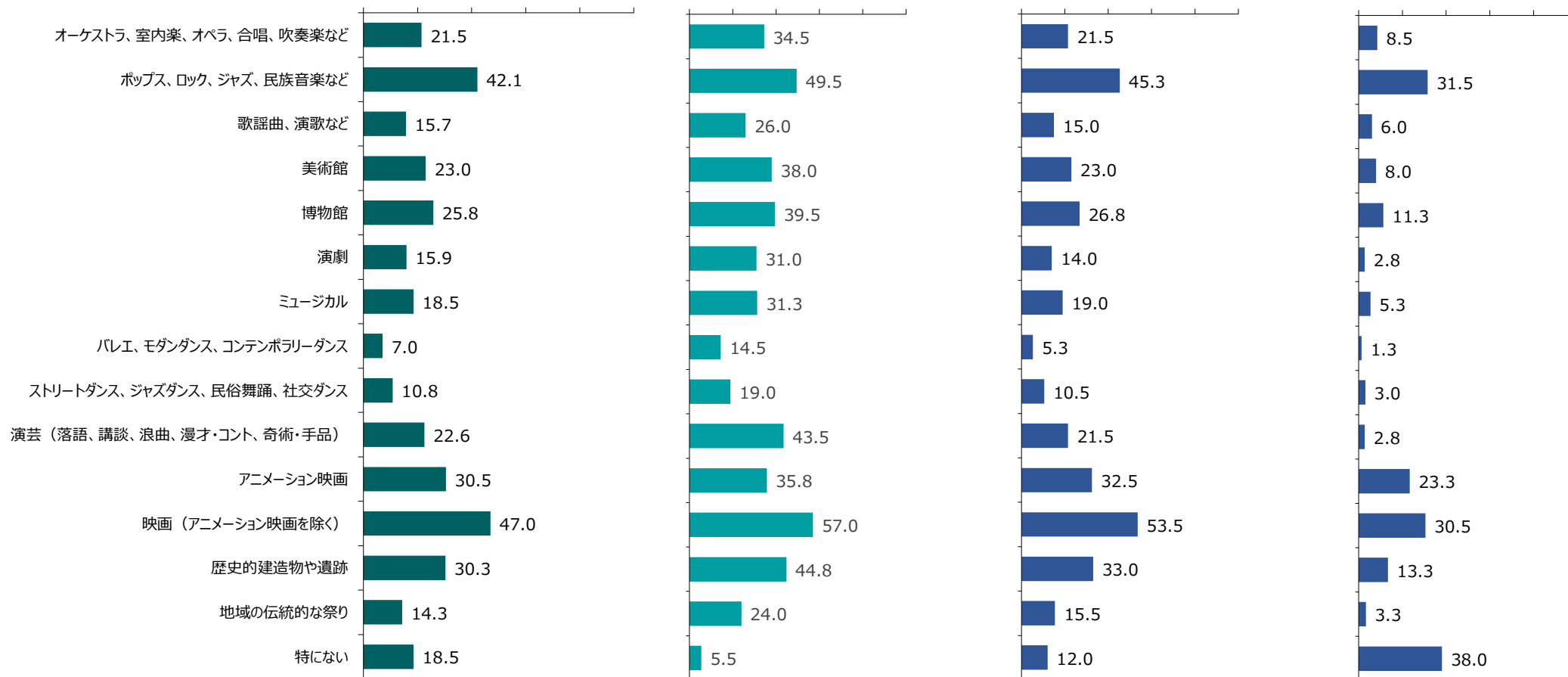
（複数回答）

全体
(n=1,200)

関心層
(n=400)

一般層①
(n=400)

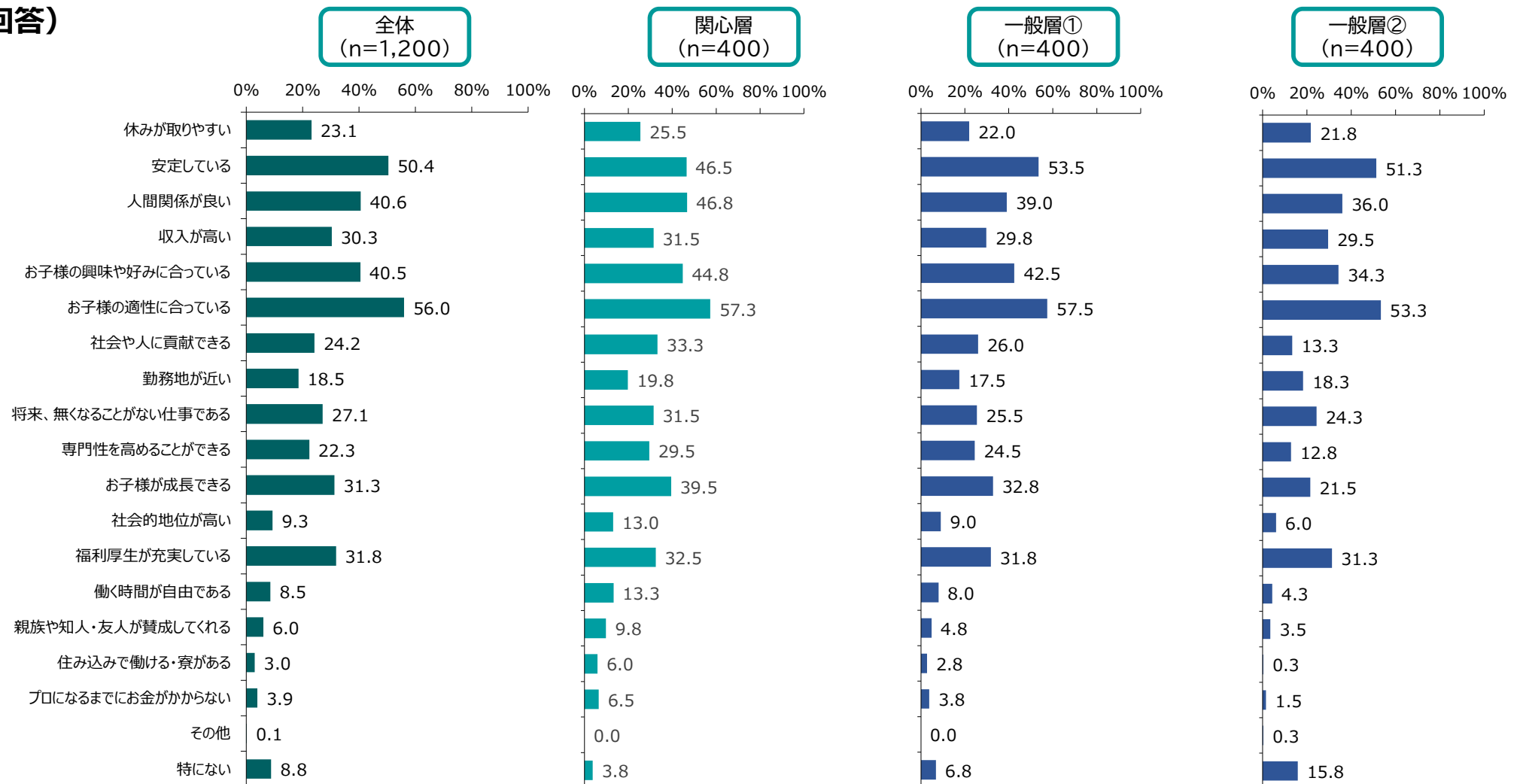
一般層②
(n=400)



- ◆いずれの層においても、「お子様の適性に合っている」が最も高く、次いで関心層では「人間関係が良い」が、一般層①②では「安定している」が高くなっている。
- ◆関心層では、「人間関係が良い」「社会や人に貢献できる」において一般層①②よりも7ポイント以上高くなっている。
- ◆一般層①では「社会や人に貢献できる」「専門性を高めることができる」「お子様が成長できる」などの仕事内容に関する項目において一般層②よりも10ポイント以上高い。さらに関心層では一般層②よりも15ポイント以上高くなっている。
- ◆「安定している」については、関心層が最も低く、一般層①が関心層と比較して7.0ポイント高い。「収入が高い」「勤務地が近い」「福利厚生が充実している」については、各セグメント間の差が3ポイント未満であり、関心度による差が小さい項目となっている。

Q12. お子様の職業として重視する条件は何ですか。

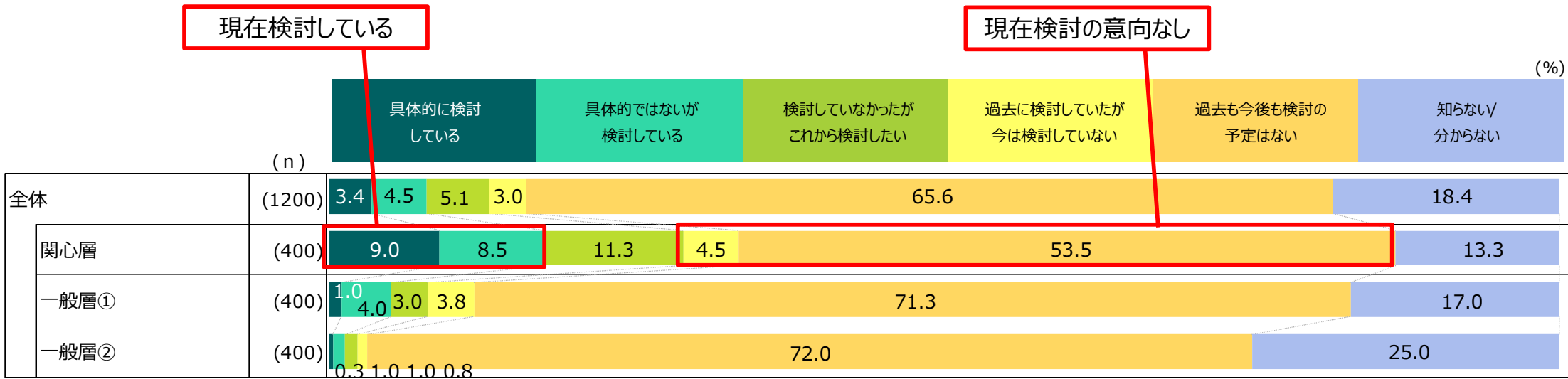
(複数回答)



- ◆いずれの層においても、「過去も今後も検討の予定はない」が最も高く、一般層①②では7割以上、関心層では約5割となっている。
- ◆関心層では、現在検討している（「具体的に検討している」+「具体的ではないが検討している」）と回答した割合が17.5%で、一般層①②よりも12ポイント以上高い。一方で、現在検討の意向がない（「過去に検討していたが今は検討していない」「過去も今後も検討の予定はない」）と回答した割合は、一般層①②が7割以上と関心層よりも15ポイント前後高くなっている。

Q13. あなたは、お子様に伝統芸能の職業に就かせることを検討したことはありますか。

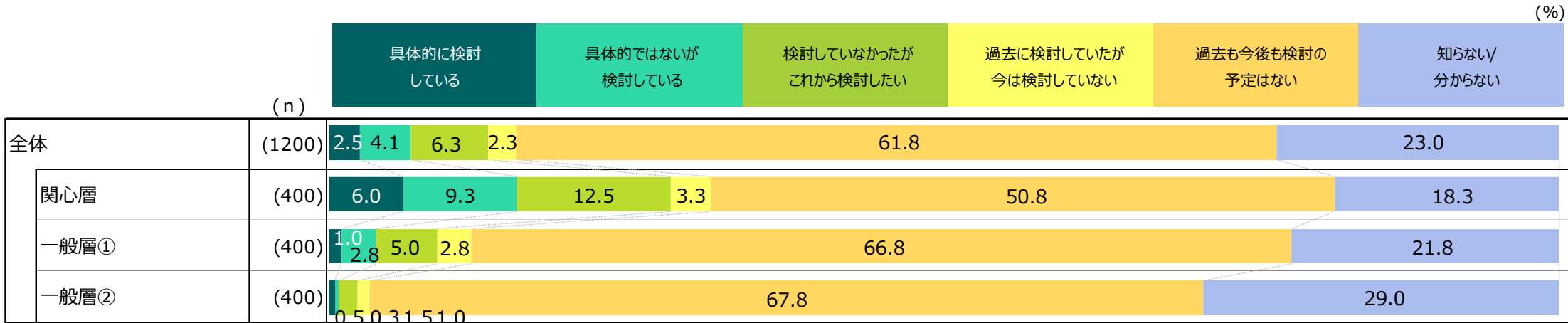
(単一回答)



- ◆いずれの層においても、「過去も今後も検討の予定はない」が最も高く、一般層①②では65%以上、関心層では約5割となっている。
- ◆関心層では、現在検討している（「具体的に検討している」+「具体的ではないが検討している」）と回答した割合が15.3%で、一般層①②よりも11ポイント以上高い。一方で、現在検討の意向がない（「過去に検討していたが今は検討していない」「過去も今後も検討の予定はない」）と回答した割合は、一般層①②が7割近くと関心層よりも15ポイント前後高くなっており、保護者と同様の傾向がみられる。

Q13. お子様自身は伝統芸能の職業に就くことを検討していますか。

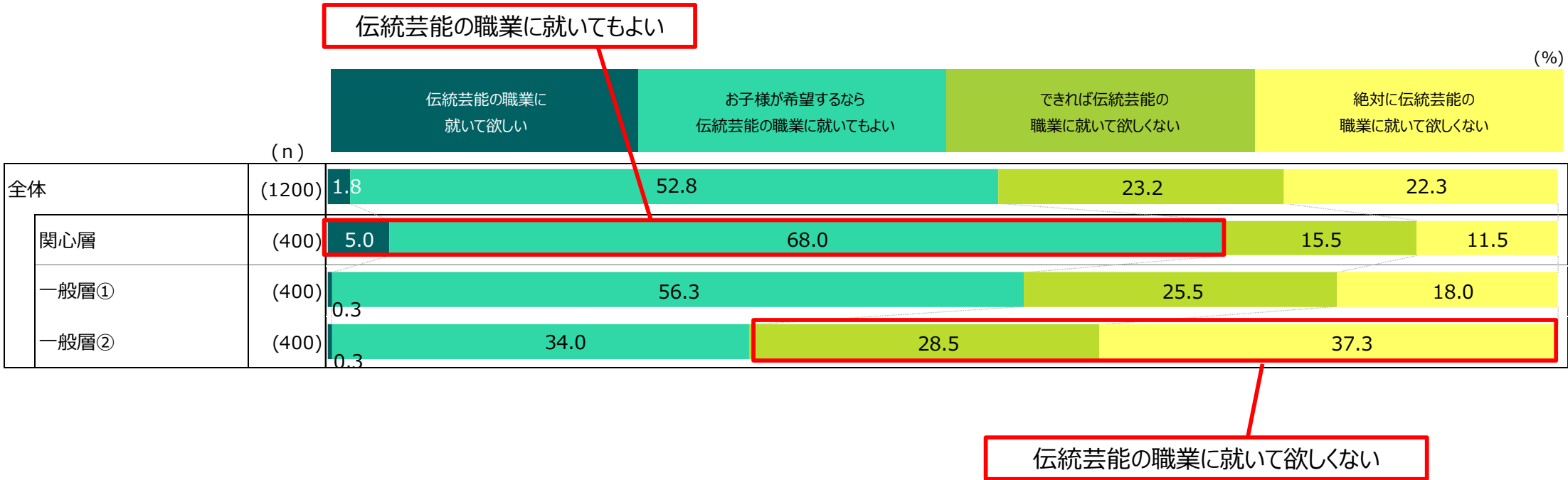
(単一回答)



- ◆ 関心層と一般層①においては、「お子様が希望するなら伝統芸能の職業に就いてもよい」が最も高く、一般層②においては「絶対に伝統芸能の職業に就いて欲しくない」が最も高い。いずれの層においても「伝統芸能の職業に就いて欲しい」は5%未満となっている。
- ◆ 伝統芸能の職業に就いてもよい（「伝統芸能の職業に就いて欲しい」+「お子様が希望するなら伝統芸能の職業に就いてもよい」）と考えている割合は、関心層(73.0%)、一般層①(56.6%)、一般層②(34.3%)と関心が高い層ほど割合が高い。一方で、「できれば伝統芸能の職業に就いて欲しくない」については、一般層①②が関心層よりも10ポイント以上高く、「絶対に伝統芸能の職業に就いて欲しくない」については一般層②が関心層、一般層①よりも19ポイント以上高い。

Q14. あなたは、お子様が伝統芸能の職業に就くことに対してどう思いますか。

(単一回答)

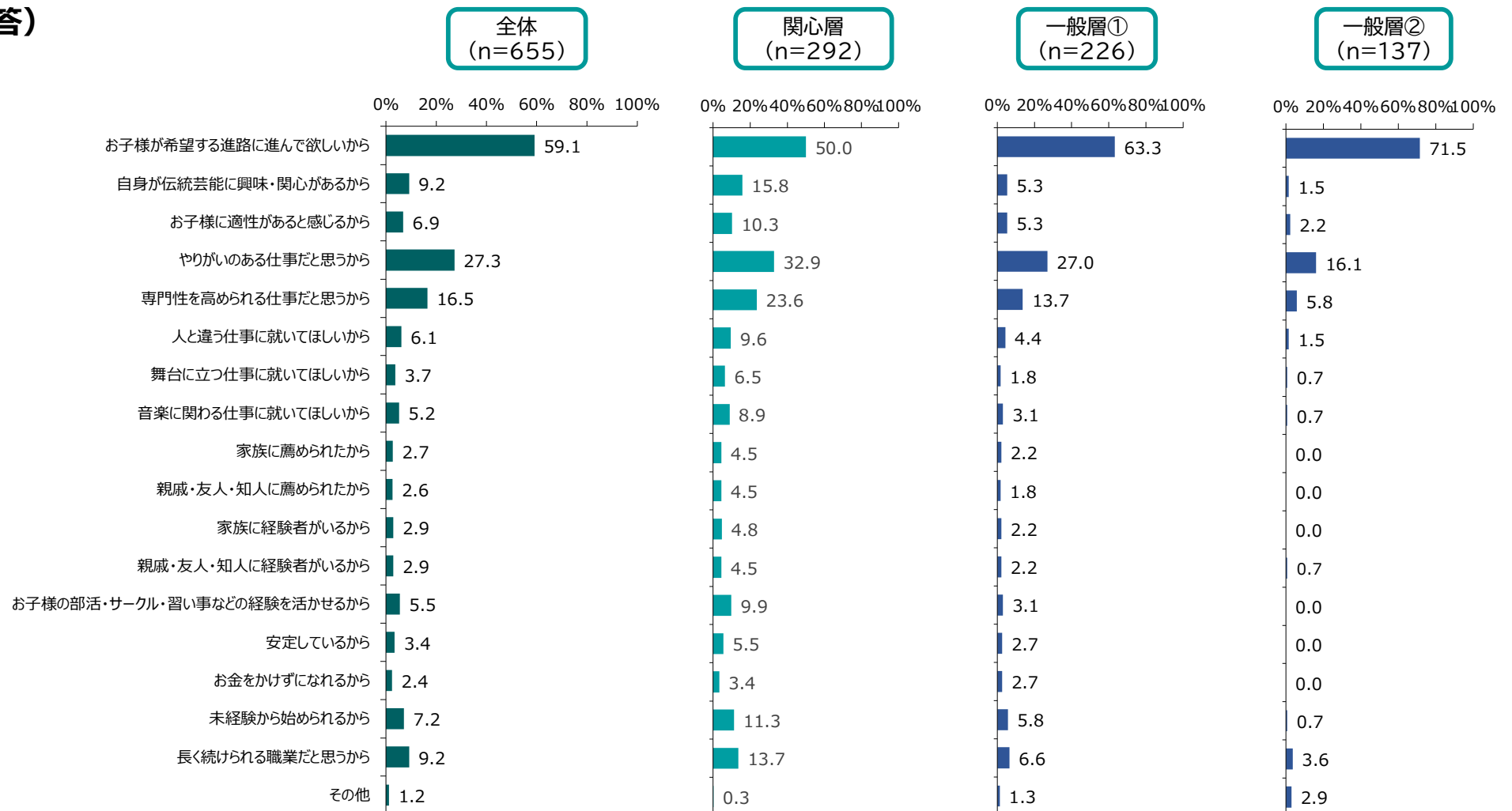


◆いずれの層においても「お子様が希望する進路に進んで欲しいから」が半数以上と最も高く、関心層(50.0%)、一般層①(63.3%)、一般層②(71.5%)と関心が低い層ほど割合が高くなっている。また、いずれも次いで、「やりがいのある仕事だと思うから」、「専門性を高められる仕事だと思うから」となっている。関心が高い層ほど、「お子様が希望する進路に進んで欲しいから」の割合が低い一方で、他の項目の割合が高くなっており、より伝統芸能の職業に対するイメージをもてていることが窺える。

Q15. お子様に伝統芸能の職業に就いて欲しい、就いてもよいと考える理由は何ですか。

※Q14で「伝統芸能の職業に就いて欲しい」「お子様が希望するなら伝統芸能の職業に就いてもよい」と回答した対象者のみ

(複数回答)

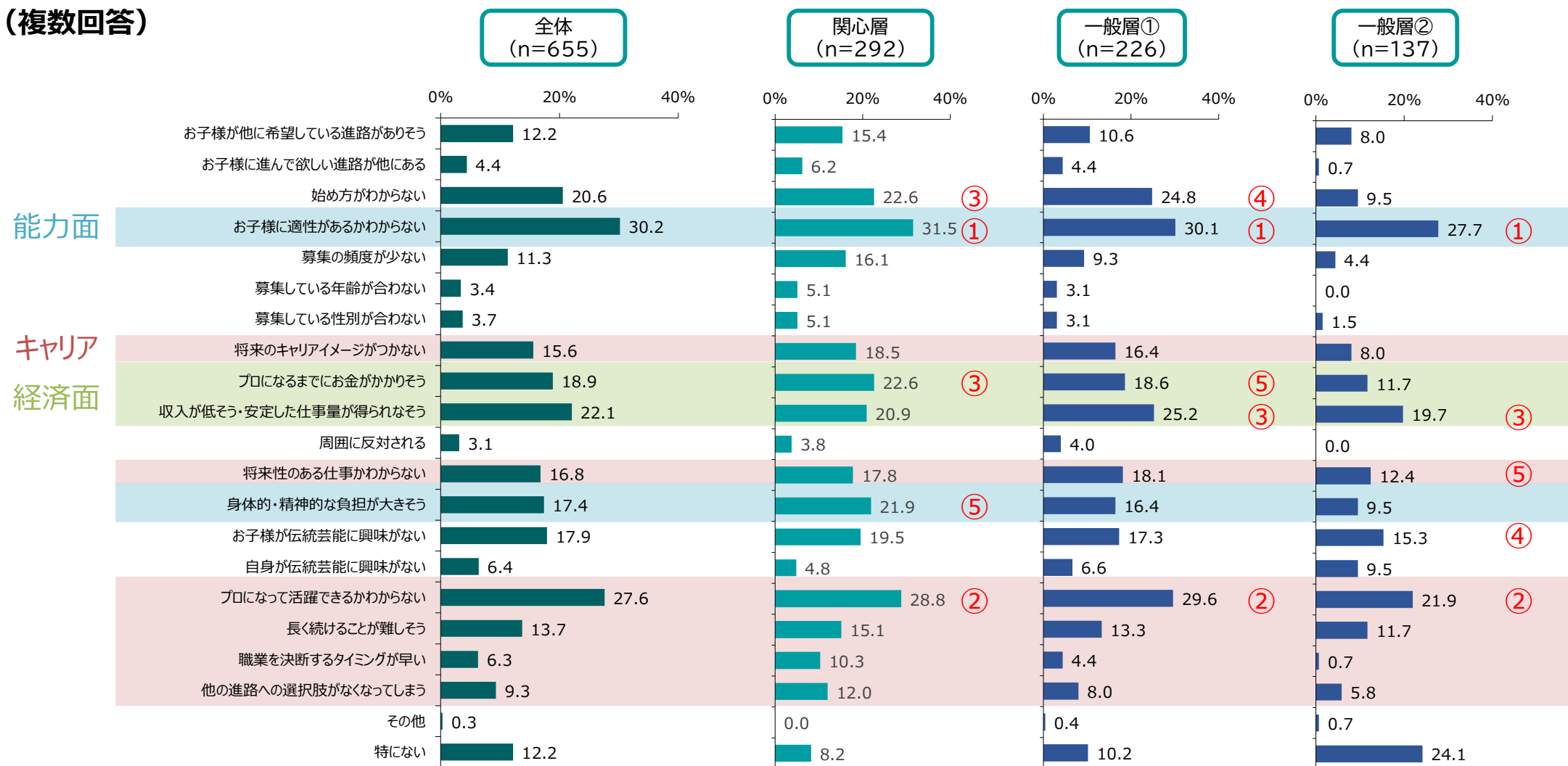


- ◆伝統芸能の職業に対して何かしらの不安をもっている割合は、関心層では91.8%、一般層①では89.8%、一般層②では75.9%となっており、関心が高い層ほど不安に感じていることがわかる。
- ◆いずれの層においても「お子様に適性があるかわからない」が最も高く、次いで「プロになって活躍できるかわからない」となっている。
- ◆3位以降については、関心層では「始め方がわからない」「プロになるまでにお金がかかりそう」となっている一方で、一般層①②では「収入が低そう・安定した仕事量が得られなそう」となっている。「始め方がわからない」については、一般層①でも4番目に高い項目となっており、関心が高い層ほど感じる傾向にある。
- ◆全体として、能力面の不安、キャリアの不安、経済面の不安の順に高くなっていることが窺える。

Q16. お子様が伝統芸能の職業に就くことについて、あなたが不安に感じることは何ですか。

※ Q14で「伝統芸能の職業に就いて欲しい」「お子様が希望するなら伝統芸能の職業に就いてもよい」と回答した対象者のみ

(複数回答)

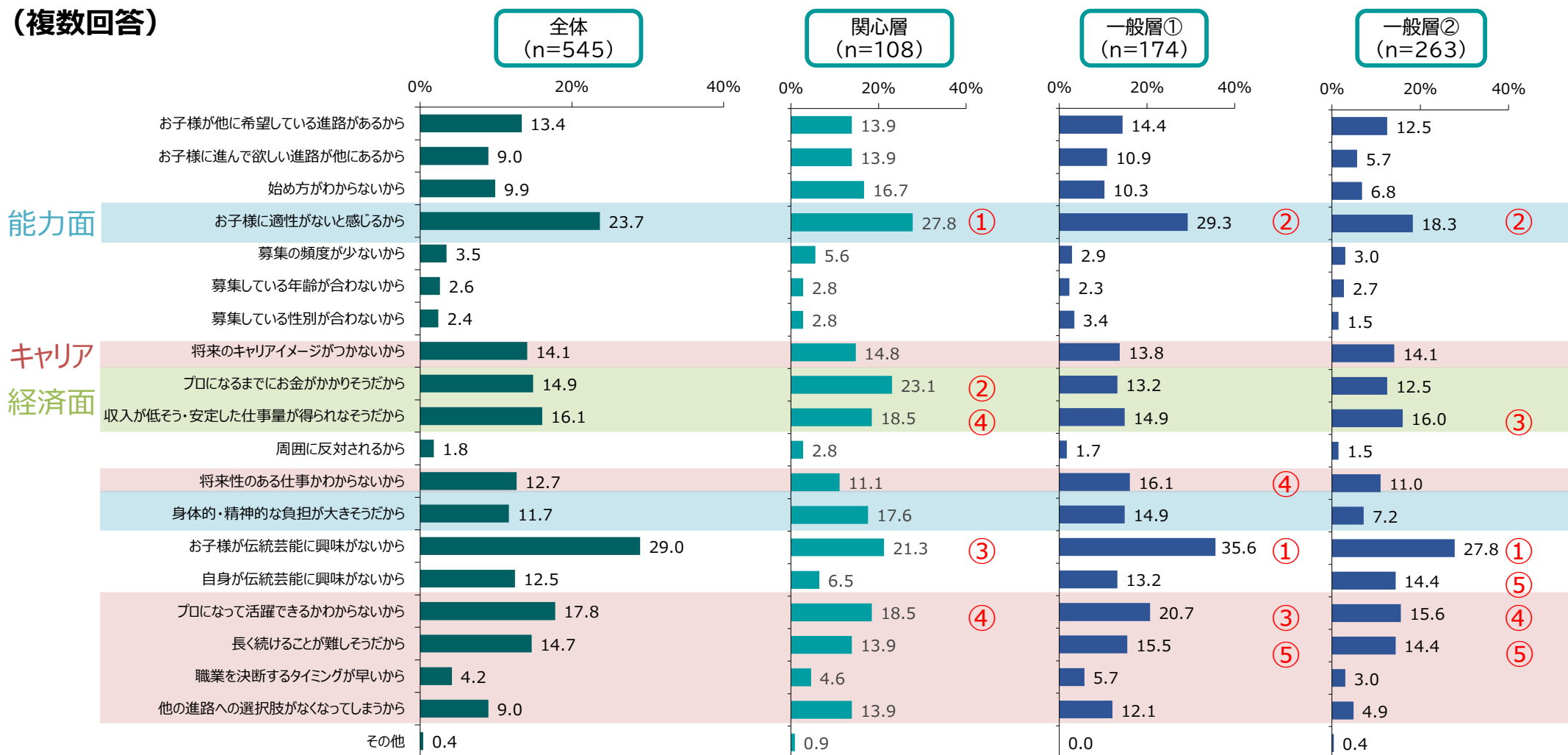


- ◆ 関心層については、「お子様に適性がないと感じるから」が最も高く、次いで「プロになるまでにお金がかかりそうだから」となっている。一般層①②については、「お子様が伝統芸能に興味がないから」が最も高く、次いで「お子様に適性がないと感じるから」となっている。
- ◆ 一般層①については「プロになって活躍できるかわからないから」「将来性のある仕事かわからないから」「長く続けることが難しそうだから」が3～5番目に高くなっており、将来も仕事を続けていくことに関して不安を感じていることが窺える。
- ◆ 全体として、子供や自身の興味についての項目を除くと、能力面の不安、経済面の不安、キャリアの不安が高くなっていることが窺える。

Q17. あなたがお子様に伝統芸能の職業に就いて欲しくないと考える理由は何ですか。

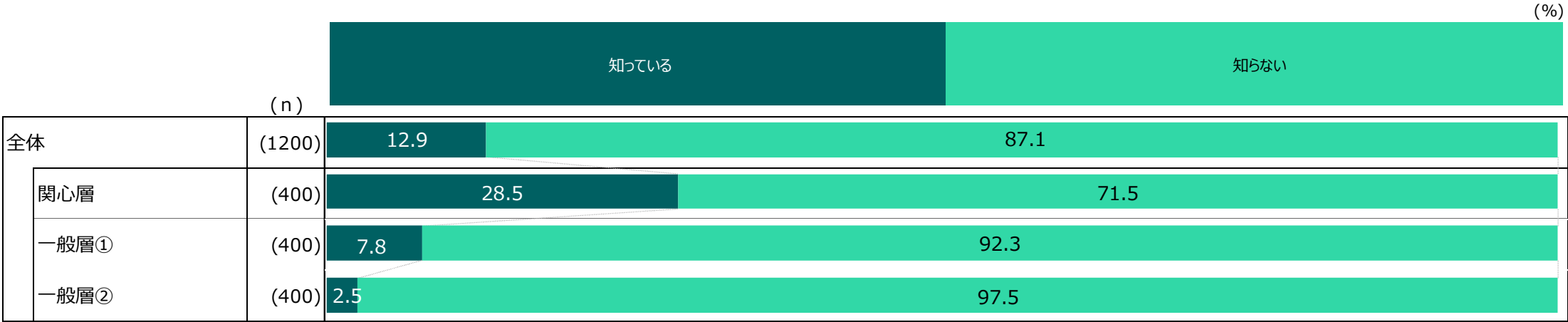
※ Q14で「できれば伝統芸能の職業に就いて欲しくない」「絶対に伝統芸能の職業に就いて欲しくない」と回答した対象者のみ

(複数回答)



◆「知っている」と回答した割合は、関心層では28.5%、一般層①では7.8%、一般層②では2.5%となっており、関心が高い層の方が認知している割合が高い。一方で、関心層であっても7割以上が認知しておらず、認知を広げる余地がある。

Q18. あなたは、国立劇場養成所（伝統芸能の新たな担い手を養成する場所）を知っていますか。
(単一回答)

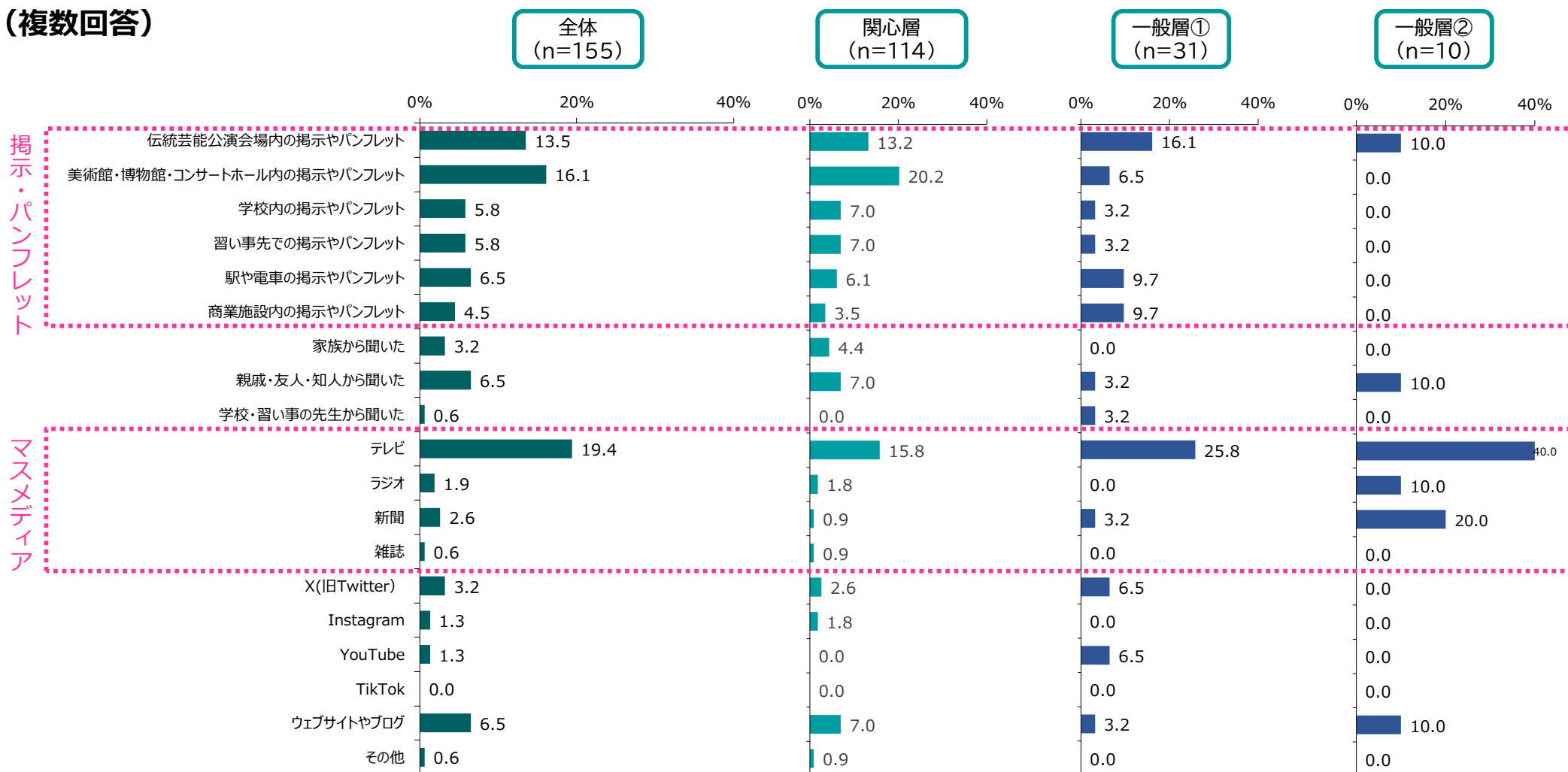


- ◆ 上位2項目については、関心層では、「美術館・博物館・コンサートホール内の掲示やパンフレット」「テレビ」、一般層①では「テレビ」「伝統芸能公演会場内の掲示やパンフレット」、一般層②では「テレビ」「新聞」となっており、関心層や一般層①では文化施設の掲示やパンフレットで目にする機会がある一方で、一般層②は主にマスメディアを通して認知している。
- ◆ 文化施設以外での掲示やパンフレットについては、関心層では学校内や習い事先がやや高い一方で、一般層①においては駅や電車、商業施設内で目にしていることがわかる。
- ◆ 関心が高い層は身近なところで認知している割合が比較的多い一方で、関心度が低くなるほど、マスメディアや人が多く集まる場所で認知していることが窺える。

※Q19で「知っている」と回答した対象者のみ回答

Q19. あなたは、国立劇場養成所を何で知りましたか。

(複数回答)



◆ 国立劇場養成所を認知している人のうち、一般から公募していることを知っている割合は、関心層、一般層①において7割以上を占めており、一般層②では4割となっている。

Q20. あなたは、一般の人で経験が無くても国立劇場養成所の研修生に応募ができることを知っていますか。
(単一回答)

※Q19で「知っている」と回答した対象者のみ回答
※サンプルサイズが30以下は参考値。



- ◆上位5項目でみると、いずれの層でも概ね同様の項目が高くなっており、経済面、能力面、キャリアに関する情報を求めていることがわかる。
- ◆関心層では、「プロになるまでの研修中にかかる費用」「養成所のサポート体制（奨学金・宿舍・住宅費補助など）」「養成所修了後にプロになった場合の年収」などの経済的な情報について多く求めていることが窺える。また、必要な能力やキャリアイメージについても2、3番目に高い項目となっている。
- ◆一般層①②においては、関心層と概ね同様の項目となるが、「定着率・離職率」についても上位5位に入っており、特に一般層②においては最も高い項目となっている。

Q21. あなたが伝統芸能をお子様の職業として考える上で知りたい情報は何か。（職業として考えていない場合は、考える場合を想像して回答してください。）

（複数回答）

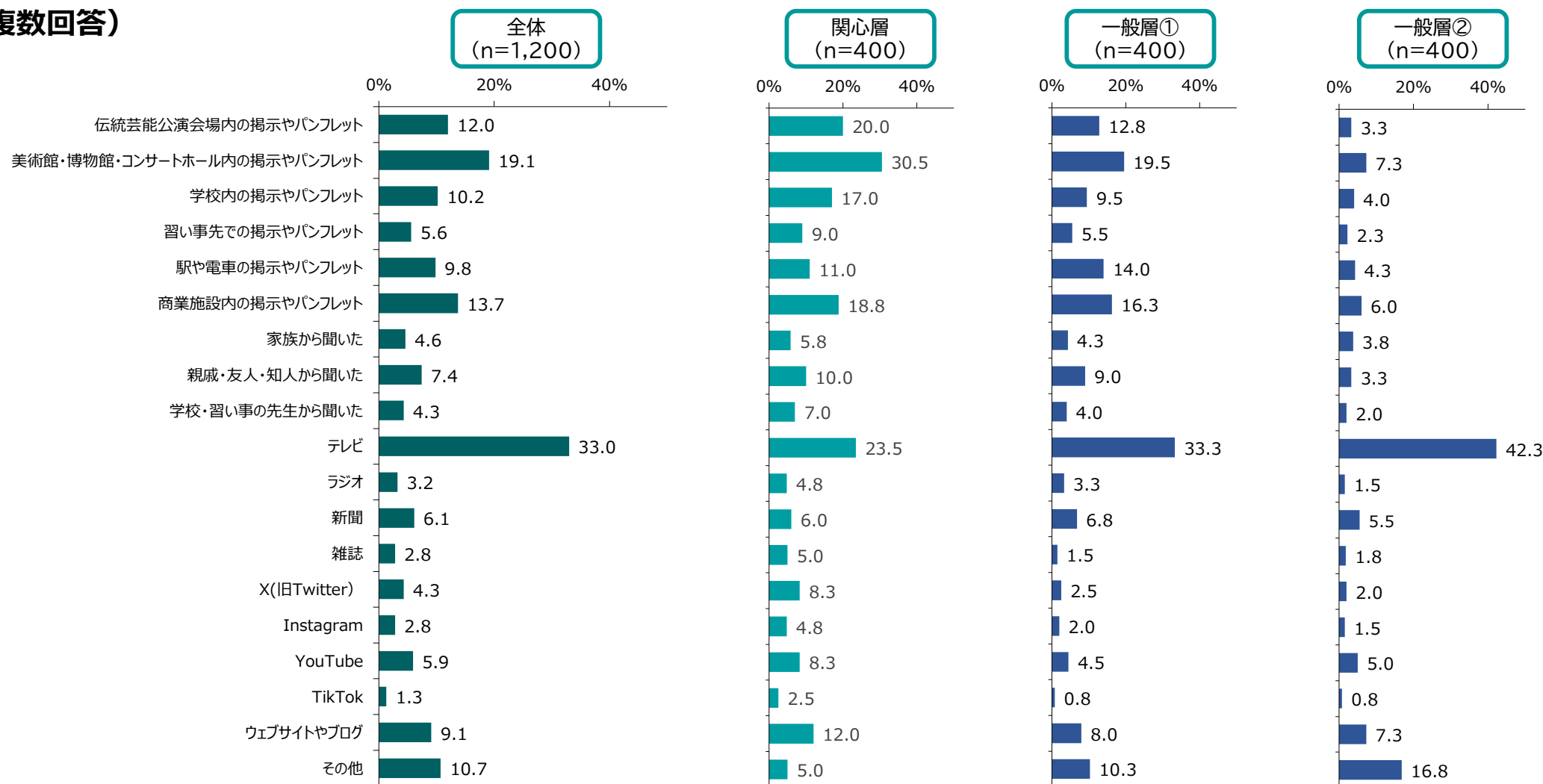
経済面
能力面
キャリア



- ◆ 関心層については、「美術館・博物館・コンサートホール内の掲示やパンフレット」が最も高く、一般層①②については「テレビ」が最も高くなっている。
- ◆ 関心層では、「伝統芸能公演会場内の掲示やパンフレット」「美術館・博物館・コンサートホール内の掲示やパンフレット」「学校内の掲示やパンフレット」において、一般層①②よりも7ポイント以上高く、SNSについては「X(旧Twitter)」が5ポイント以上高い。
- ◆ 一般層①では、「駅や電車の掲示やパンフレット」「商業施設内の掲示やパンフレット」などの人が集まる場所でも目にしている人が多い。一般層②では、テレビが4割を占めている。

Q22. あなたが伝統芸能の公演や体験、募集の情報を目にしたことがある、耳にしたことがある場面を選択してください。

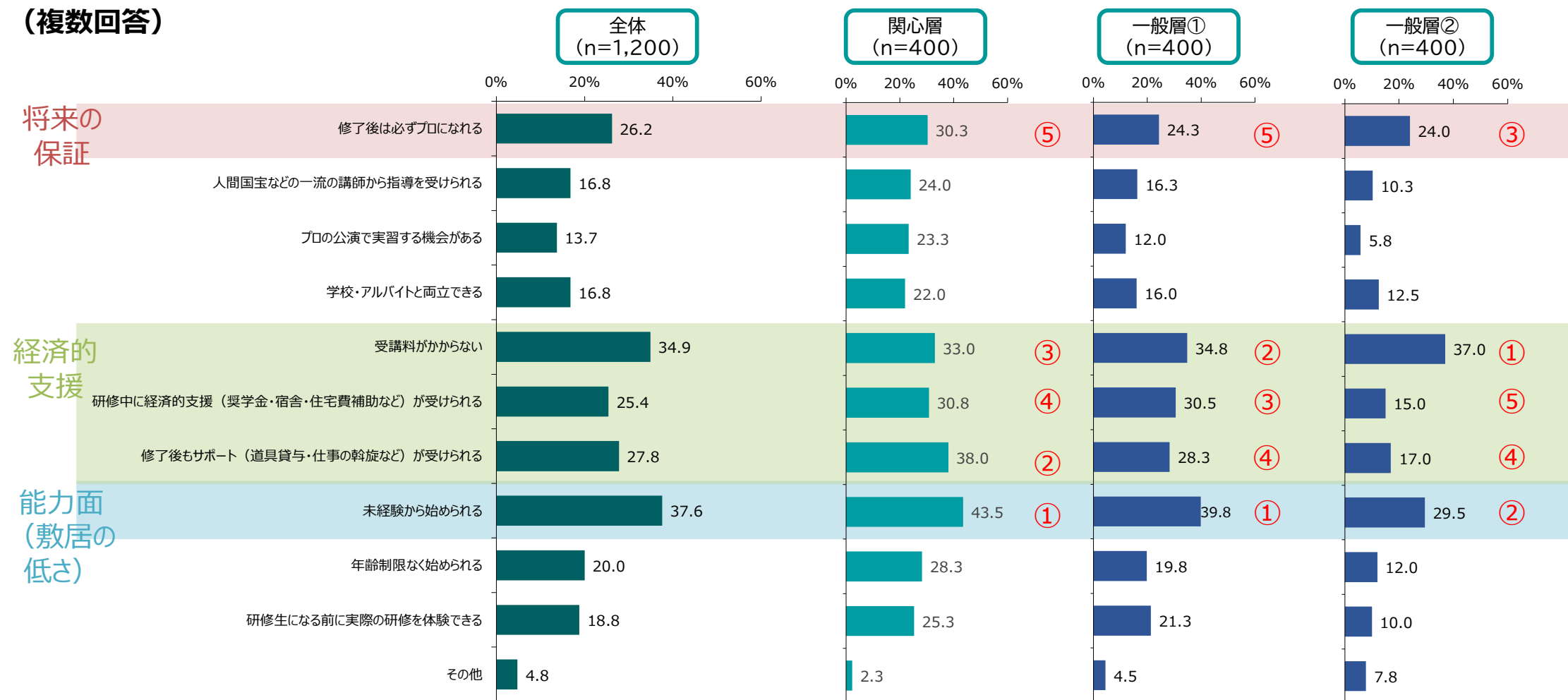
(複数回答)



- ◆上位5項目で見ると、いずれの層においても同様の項目となっている。関心層、一般層①においては「未経験から始められる」が最も高く、一般層②においては「受講料がかからない」が最も高い。
- ◆3位以降と比較すると、関心層や一般層①では、研修中や修了後の経済的なサポートがより重視されているのに対し、一般層②では修了後に必ずプロになれることが重視されている。

Q23. あなたは、伝統芸能を学ぶ養成所がどのようなところであればお子様を通わせたいと思いますか。

(複数回答)



2. 定性調査

2-1. 定性調査 調査概要

調査目的

国立劇場伝統芸能伝承者養成所における認知度向上と継続的な研修生応募者の獲得という課題に対応するために、定量調査の回答者に対してより詳細を聴取する調査を実施し、回答内容の背景・理由について具体的に把握を行う。

調査方法

フォーカスグループインタビュー

調査日

2025年1月8日（水）

調査対象

定量調査回答者のうち、
・伝統芸能への興味・関心が高い人（関心層）
 ➡ 定量調査において伝統芸能に「興味・関心がある」と回答した対象者
・高校生以下の子供をもつ人

上記に当てはまる対象者を下記2グループに分けた。
【グループ1】子供が希望する場合は伝統芸能の職業に就いても良いと考える保護者
【グループ2】子供が希望する場合でも伝統芸能の職業に就いて欲しくないとする保護者

グループ数・対象者数

2グループ（4名/グループ）

【グループの構成】

グループ	子供の年齢	伝統芸能への関心	子供の伝統芸能への進路選択について	居住地	人数
1	高校生以下 の子ども有	関心あり	お子様が希望するなら伝統芸能の職業に就いてもよい	一都三県	1
				二府一県	1
				上記以外の地域	2
2	高校生以下 の子ども有	関心あり	・できれば伝統芸能の職業に就いて欲しくない ・絶対に伝統芸能の職業に就いて欲しくない	一都三県	2
				上記以外の地域	2

対象者設定の考え方

定量調査での関心層のうち、応募を検討する世代の中心となる高校生以下の子供をもつ保護者に限定し、伝統芸能の職業検討における障壁を明らかにする目的で、意向別にグループ分けを行った。
また、居住地域によるハードルの有無についても聴取を行う目的で、各グループ内では養成所の研修場所である東京・大阪周辺の一都三県・二府一県とその他の地域で2名ずつになるように構成した。

調査実施機関

株式会社サーベイリサーチセンター

1. イン트로ダクション

- ①司会者挨拶、趣旨説明、発言留意点の説明

2. 自己紹介・子供について

- ①参加者自己紹介
- ②子供の人数・学年
- ③子供の就学予定
- ④子供の将来の夢・希望する職業

3. 子供の職業選択において重視していること

- ①子供の職業選択において重視していること

4. 子供が伝統芸能の職業に就くことについての考え

- ①自身と子供の伝統芸能との接点
- ②「伝統芸能」という言葉を聞いて、職業としてどのようなイメージをもつか

ー伝統芸能の分野の例示ー

- ③子供が伝統芸能の職業を希望した場合、就いても良いと考える理由、または就いて欲しくない理由
- ④子供が伝統芸能の職業を希望した場合に、不安に思うこと
- ⑤不安に対して、具体的にどう解決すれば不安を払拭できたり、子供の後押しをしようと思えるか

ー養成所の概要を説明ー

- ⑥子供が伝統芸能の職業に就くにあたって下記要素について聴取
 - (1) 子供に適性がないイメージがあるか、ある場合はなぜそう感じるのか
 - (2) 学校を卒業してから本格的に就労するまで研修期間がある場合、何年までなら許容できるか
 - (3) (地方の対象者) 子供が地元を出て東京・大阪で働くことについて抵抗はあるか
(都市の対象者) 子供が親元を離れた遠くの土地で就業することへ抵抗感があるか、応援したいと思えるか
 - (4) プロになれない可能性/プロになった後に仕事がないことへ不安はあるか
 - (5) プロになるまでの研修中にかかる費用としてどの程度なら許容できるか
 - (6) 現実的に検討する場合に、「始め方」のイメージはもてるか、もてない場合に必要な情報

ー養成所の取組を説明ー

- ⑦取組について、就職を後押しする保護者としてどう感じるか

5. まとめ・補足事項

【グループ1】対象者プロフィール（定量調査時点の回答）

	1-A	1-B	1-C	1-D
性別	女性	女性	男性	男性
年齢	53	50	63	51
居住地	福井県	東京都	京都府	愛知県
子供の人数	1人	1人	1人	2人
子供の学年	高校生	高校生	高校生	中学生、小学校4～6年
子供の性別	男性	女性	女性	男性(中学生)、女性(小学生)
SC8.あなたは以下の伝統芸能を知っていますか。				
歌舞伎	鑑賞をしたことがある	鑑賞をしたことがある	鑑賞をしたことがある	鑑賞・体験はしたことはないが内容は知っている
日本音楽(三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫など)	芸能のジャンル(部門・種類)は知っている	芸能のジャンル(部門・種類)は知っている	鑑賞をしたことがある	鑑賞・体験はしたことはないが内容は知っている
能楽(能・狂言)	名前だけ知っている	芸能のジャンル(部門・種類)は知っている	鑑賞をしたことがある	芸能のジャンル(部門・種類)は知っている
人形浄瑠璃文楽	名前だけ知っている	鑑賞・体験はしたことはないが内容は知っている	鑑賞をしたことがある	芸能のジャンル(部門・種類)は知っている
日本舞踊	鑑賞をしたことがある	芸能のジャンル(部門・種類)は知っている	鑑賞をしたことがある	芸能のジャンル(部門・種類)は知っている
寄席の芸能(落語・講談・太神楽・漫才・奇術など)	鑑賞・体験はしたことはないが内容は知っている	芸能のジャンル(部門・種類)は知っている	鑑賞をしたことがある	鑑賞をしたことがある
雅楽	鑑賞・体験はしたことはないが内容は知っている	芸能のジャンル(部門・種類)は知っている	鑑賞をしたことがある	芸能のジャンル(部門・種類)は知っている
組踊	名前も内容も知らない	名前も内容も知らない	鑑賞をしたことがある	名前だけ知っている
SC9.あなたは以下の伝統芸能に興味・関心はありますか。				
歌舞伎	興味・関心がある	興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がある	興味・関心がある
日本音楽(三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫など)	どちらかといえば興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がない	どちらかといえば興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がある
能楽(能・狂言)	どちらかといえば興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がある	興味・関心がある
人形浄瑠璃文楽	興味・関心がない	どちらかといえば興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がある
日本舞踊	どちらかといえば興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がある
寄席の芸能(落語・講談・太神楽・漫才・奇術など)	どちらかといえば興味・関心がない	どちらかといえば興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がある	興味・関心がある
雅楽	どちらかといえば興味・関心がない	どちらかといえば興味・関心がある	興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がある
組踊	-	-	どちらかといえば興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がある
Q14.あなたは、お子様が伝統芸能の職業に就くことに対してどう思いますか。				
	お子様が希望するなら伝統芸能の職業に就いてもよい	お子様が希望するなら伝統芸能の職業に就いてもよい	お子様が希望するなら伝統芸能の職業に就いてもよい	お子様が希望するなら伝統芸能の職業に就いてもよい

【グループ2】対象者プロフィール（定量調査時点の回答）

	2-A	2-B	2-C	2-D
性別	女性	男性	男性	女性
年齢	55	54	51	38
居住地	東京都	東京都	岐阜県	鳥取県
子供の人数	1人	2人	3人	2人
子供の学年	高校生	専門学生、中学生	小学校1～3年、中学生	中学生、年中
子供の性別	女性	男性	女性	男性
SC8.あなたは以下の伝統芸能を知っていますか。				
歌舞伎	鑑賞をしたことがある	名前だけ知っている	名前だけ知っている	鑑賞をしたことがある
日本音楽(三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫など)	鑑賞をしたことがある	名前だけ知っている	名前だけ知っている	鑑賞をしたことがある
能楽(能・狂言)	鑑賞をしたことがある	名前だけ知っている	名前だけ知っている	鑑賞をしたことがある
人形浄瑠璃文楽	鑑賞をしたことがある	名前だけ知っている	名前も内容も知らない	鑑賞をしたことがある
日本舞踊	鑑賞をしたことがある	名前だけ知っている	名前だけ知っている	鑑賞をしたことがある
寄席の芸能(落語・講談・太神楽・漫才・奇術など)	鑑賞をしたことがある	名前だけ知っている	鑑賞・体験はしたことはないが内容は知っている	鑑賞をしたことがある
雅楽	鑑賞をしたことがある	名前だけ知っている	名前も内容も知らない	鑑賞をしたことがある
組踊	名前も内容も知らない	名前だけ知っている	名前も内容も知らない	鑑賞をしたことがある
SC9.あなたは以下の伝統芸能に興味・関心はありますか。				
歌舞伎	興味・関心がある	興味・関心がある	興味・関心がない	興味・関心がある
日本音楽(三味線・囃子・太鼓・長唄・義太夫など)	興味・関心がある	興味・関心がある	興味・関心がない	興味・関心がある
能楽(能・狂言)	興味・関心がある	興味・関心がある	興味・関心がない	どちらかといえば興味・関心がある
人形浄瑠璃文楽	興味・関心がある	興味・関心がある	-	どちらかといえば興味・関心がある
日本舞踊	興味・関心がある	興味・関心がある	興味・関心がない	どちらかといえば興味・関心がある
寄席の芸能(落語・講談・太神楽・漫才・奇術など)	興味・関心がある	興味・関心がある	興味・関心がある	どちらかといえば興味・関心がある
雅楽	興味・関心がある	興味・関心がある	-	どちらかといえば興味・関心がある
組踊	-	興味・関心がある	-	どちらかといえば興味・関心がある
Q14.あなたは、お子様が伝統芸能の職業に就くことに対してどう思いますか。				
	できれば伝統芸能の職業に就いて欲しくない	絶対に伝統芸能の職業に就いて欲しくない	できれば伝統芸能の職業に就いて欲しくない	絶対に伝統芸能の職業に就いて欲しくない

2-2. 定性調査 調査結果

属性

		グループ1	グループ2
グループ区分		関心層 子供が希望すれば伝統芸能の職業に就かせても良い	関心層 子供が希望しても伝統芸能の職業に就いて欲しくない
属性	居住地	A : 福井県福井市 B : 東京都練馬区 C : 京都府長岡京市 D : 愛知県名古屋市	A : 東京都港区 B : 東京都中野区 C : 岐阜県羽島郡 D : 鳥取県倉吉市
	家族構成	A : 母親、子供 B : 父親、母親、子供 C : 父親、母親、子供 D : 父親、母親、子供	A : 父親、母親、子供 B : 父親、母親、子供 C : 父親、母親、子供 D : 母親、子供
	職業	A : パート B : 専業主婦 C : 会社員 D : 会社員	A : 専業主婦 B : 会社員 C : 会社員 D : 美容業
	子供の性別・学年	A : 男性（高校3年生） B : 女性（高校1年生） C : 女性（高校3年生） D : 男性（中学3年生）、女性（小学5年生）	A : 女性（高校3年生） B : 男性（専門学生）、男性（中学3年生） C : 女性（中学3年生）、女性（中学1年生）、女性（小学3年生） D : 男性（中学1年生）、男性（3歳）
	子供の就学予定・希望進路	A : 大学進学（文系）。 B : 大学進学（理系）、薬や化粧品の研究員を志望。 C : 大学進学（栄養関係・内部進学）。 D : 高校進学（内部進学）、数学に興味がある。 中学進学（受験）、動物関係に興味がある。 ※全員、具体的な職業は未定。	A : 大学進学（医療系）、医者を目指。 B : 就職（福祉施設）、就職（作業所）。 C : 中学進学、将来就きたい職業は未定。 D : 高校進学（内部進学）ののち、航空大学、パイロット志望。 小学校進学、芸能に興味がありダンスや歌を習っている。

子供の職業選択全般について

		グループ1	グループ2
グループ区分		関心層	関心層
		子供が希望すれば伝統芸能の職業に就かせても良い	子供が希望しても伝統芸能の職業に就いて欲しくない
子供の職業選択において重視すること	経済面	B：収入は多い方が良いが、見合っていればよい。	—
	仕事内容	C：子供のやりたいことができる。 D：ある程度の裁量権がある。	A：会社を辞めた時にも困らないよう、資格をもつことができる。 C：国家資格を取得し、医療系の専門職として働いて欲しい。 D：本人が夢を実現することができる職に就いて欲しい。
	就業環境	A：ホワイト企業でサービス残業がない。 会社規模が大きく責任を分散できる・休日が取りやすい。 健康診断を毎年実施してくれる。 B：休みがカレンダー通りで友達と予定が合わせやすい。 C：できれば大企業が良い。	A：上司からの圧力がかからない。 B：自分の頃よりは環境が改善されていると思うので、どのような環境でも送り出したい。 C：夜勤もあっても良いし、むしろあった方が良い。 D：環境の過酷さは入ってみてわかると思うので、社会勉強になる。
	地元就職の希望	A：地元でなくても良い。 D：できれば地元が良いが、時代の流れもあるため強いることはしない。	C：日本だけに限らず、海外に住んでみたいという考えがあれば子供の考えを尊重したい。 D：上の子が大学などで地元を離れる場合は引っ越す。
	保護者の意向/本人の意向バランス	A：本人の意向を優先 B：本人の意向を優先 C：本人の意向を優先 D：本人の意向を優先	A：本人の意向を優先 B：本人の意向を優先 C：本人の意向を優先 D：本人の意向を優先

伝統芸能との接点

		グループ1	グループ2
グループ区分		関心層 子供が希望すれば伝統芸能の職業に就かせても良い	関心層 子供が希望しても伝統芸能の職業に就いて欲しくない
伝統芸能との接点	本人	A：歌舞伎に関心がある。 B：歌舞伎をたまに観に行っていた。 国立劇場の鑑賞教室に子供を連れて行っていた。 C：地元の和太鼓で世話役をやっていた。 D：一度は歌舞伎を観に行ってみたいと思っている。 4年ほど前に子供と一緒に寄席を3回ほど観に行った。	A：母親が歌舞伎と文楽が好きだった影響で、小さい頃から歌舞伎や文楽を観に行っていた。自身も中村勘三郎が好きだった。 同級生が能の家に嫁いだため、1年に何回か子供を連れて能を観に行っている。 B：能や狂言は教養として一度は観たいと思っている。 C：地元の獅子芝居で父方の親戚が指導者として育成にあたっている。 実際に何回か観たことがあり、感動した。 D：興味はある。京都出身で、芸者を養成しているところがあった。また、祖母が唄を教える先生だったので、小さいうちからそういうところを見てきた
	子供	A：保育園で日本舞踊を習っており、筋が良いと言われていたが、小学校入学後に関心がなくなった。 B：国立劇場の鑑賞教室に行ったが、理解できず寝てしまった。 C：小さい頃から中学まで地元の和太鼓をやっていたが、年齢制限があったため高校以降はOBとしてたまに参加する程度。 D：寄席を3回ほど鑑賞。	A：年に1～2回、学校行事で歌舞伎座を訪問し歌舞伎を鑑賞している。 年に何回か能を観に行っている。 B：おそらく興味は無さそう。 C：地元で獅子芝居を観る機会がある。 D：上の子が年長か小学校1年生の時に歌舞伎を観たことがある。

伝統芸能の職業に対する印象

		グループ1	グループ2
グループ区分		関心層	関心層
		子供が希望すれば伝統芸能の職業に就かせても良い	子供が希望しても伝統芸能の職業に就いて欲しくない
伝統芸能の職業に対する印象	伝統芸能の職業のイメージ	A：世襲制で、一族・一門のような後ろ盾がないと厳しそう。 B：世襲制で、新しい人が入ってこれない。 男社会で、女性が演者として出ることはあまりない。 C：生活していけるかがわからない。 地域の文化として残したいという気持ちはある。 D：やっただけ収入が増えるわけではないので、食べていくのは厳しい。 下積みが長い一方で、息も長い。 開花するまでのハードルがかなり高いので、仕事にするには困難。	A：友人から練習の様子を聞いていたり、ドラマで歌舞伎の裏側のストーリーを子供と見ていて、血筋ではなく外部から入ることもできるとあり興味はあった。 台詞を覚える記憶力が必要で、頭が良くないとできないため尊敬している。 B：基本的には世襲制や一子相伝の世界なため、親戚づきあいを行っていかねばならない。 縦社会で世俗とは繋がり感覚が違う。 C：非常に過酷な練習がある。 D：稽古が大変。
	伝統芸能の職業に就いても良い理由	A：貴重な体験のため、経験が何かに生きていくと思うから。 子供1人くらいなら援助もできなくはないから。 B：本人が希望するならやってみても良い。 C：伝統芸能を残していきたい気持ちはあるため。 D：本人が希望するならやっても良い。	—
	伝統芸能の職業に対する不安	A：不安はあまりない。 B：収入が不安定なため、金融機関からの信用が得られない。 金銭がどの程度必要になるか全く想像がつかない。 チケットノルマがありそう。 C：食べていけるレベルまで上がって行ける人の方が少なそう。 D：親がある程度は援助していかなければならない。 一般的な人生のステップ（結婚や出産）と逆を行ってしまいそう。	A：片岡愛之助さんも養子になったと聞くので、小さい頃から養子に入らないと難しい世界。 B：才能が無さそう、家族単位での付き合いが難しい。 D：稽古が大変なため、性格的に耐えられるのか不安。

国立劇場養成所の概要に対する印象

		グループ1	グループ2
グループ区分		関心層	関心層
		子供が希望すれば伝統芸能の職業に就かせても良い	子供が希望しても伝統芸能の職業に就いて欲しくない
国立劇場養成所の概要に対する印象	適性について	A : 経験不問であれば、しがらみがなくて良い。 B : 結局は頻繁に能力をチェックされると思うので、才能がなかった場合に途中で終わってしまうことが不安。 C : 好きでも素養がなければプロになれないため、見極めが難しい。	A : 敷居が低くなっている、一般からも入れて面白い世界が広がっている。 B : 適性審査の可否基準がわからない。
	研修期間について	B : 研修期間が6年の場合、高卒で入所しても修了時は24歳なので、そこで脱落したらどうやって生きていくのか不安。 C : 長いと感じるが、これだけの期間がないと人前に立てないというのも理解しているので、本人の希望がなければなかなかできない。	D : 唄も三味線も客の前に立てるようになるまでとても期間がかかるため、8ヶ月以内でまずは適性審査というのも謎である。 自分で生活費を稼げるようになるまで何年かかるのかが不安。 一般から入って家柄でもないところの研修期間で何人残るのか。
	勤務地について	A : 大学で地元を出ることもあり、東京であればついて行っても良い。 B : 東京在住のため、東京を希望するが、本人が希望するなら大阪でも良い。ただ、緊急時に親が駆けつけづらいという不安がある。 C : 大阪は近いので行きやすい。勤務地は気にならない。	B : 親離れできていない状態で全く異なる環境に行ったらホームシックになったり、メンタルが不安定になる子供もいるため、それらも含めてのスタートかと思う。
	プロになること/なった後について	A : 養成所出身で活躍している人がどの程度いるのかが気になる。 C : プロの演者になれる保証がないことが一番の不安。 D : 独り立ちした後も食べていけるのか不安。 中学卒業後に入所すると、挫折してしまった場合に中卒になってしまうが、高校卒業後の入所だとプロとして活躍する期間が短くなってしまふ。	A : 全員が残れるわけではない。 先の給料や一生食べていけるのかが不安。 B : 主役ではなく縁の下を支える演者を育成する機関の印象。 修了してプロになれたとしてもその仕事以外に潰しがきかないため、やっていけないとなった時にそれ以外のことができない。 C : 毎年何名が研修を受けて何名が残り、最終的にはどの程度残るのかのデータを知りたい。 D : お金が入る前から借金から始まるような生活のため、自分の給料は全く取れなそう。

国立劇場養成所の概要に対する印象

		グループ1	グループ2
グループ区分		関心層 子供が希望すれば伝統芸能の職業に就かせても良い	関心層 子供が希望しても伝統芸能の職業に就いて欲しくない
国立劇場養成所の概要に対する印象	研修費用について	A：受講料が無料だとどこまで本格的に教えてもらえるのかという不安がある。 B：足袋などは自己負担で良いと思うが、着物や袴、高い和楽器は用意してあげられない。 D：受講料は無料だが、生活するにはお金がかかるため、研修の時間以外でアルバイトが必要。 弟子入りして下積みを行う場合とどちらが経済的に有利なのかが気になる。	A：宿舍が無料だとより良い。テレビのCMで競艇の養成を目にするが、全て無料であったり、給料をもらって研修できたりするため、ここは有料なのかと思った。
	始め方について	A：本人が希望した場合は、やみくもに始めるよりもこのような養成所で情報を収集したり基礎を身に着けるなりしてみたら良い。様々な知識が得られるため、中卒で何もない状態に入るならこういったところでも良いと思う。	B：希望者の家族に対して稽古の内容や宿舍を案内するオープンスクールを実施した方が良い。

国立劇場養成所の取組について

		グループ1	グループ2
グループ区分		関心層	関心層
		子供が希望すれば伝統芸能の職業に就かせても良い	子供が希望しても伝統芸能の職業に就いて欲しくない
国立劇場養成所の取組の評価	取組① 伝統芸能 体験教室	A：取っ掛かりとしては良いと思う。子供に行かせるかもしれない。 B：入口の取組があるのはとても良いことだと思う。興味をもつ人が増えると思うが、自分から子供に焚きつけることはしない。学校の配布物や自分からネットで見つけてきて、行きたいと言えば行かせる。 C：自身も和太鼓で子供を集めるのに苦労したため評価したいし、行かせたい。 D：その道に進まなかったとしてもこういった経験から興味をもって将来的に観客になる可能性は出てくる。	A：興味があっても取組を知らない人が多くもったいないため、将来この仕事に就かなくても一度やってみるべきだと思う。 自分も興味があるので一緒に参加したい。 B：まさにオープンスクールそのもので良い取組だと思うので、もっと宣伝して良いと思う。 演者を育てるだけでなく、興味をもつ観客側の育成も業界としての1つの役目だと思うので、良い取組だと思う。 C：子供の中には興味を示してやってみたい子が出てくると思うので、こういった体験会は非常に良いと思う。
	取組① PR方法	A：小学校や中学校だと東京まで出向く気は起きないため、定期的に地方を回った方が裾野は広がる。 B：InstagramやYouTubeの広告で流すと目に触れる。 C：特に低学年だと親がついて行かなければならず、地元開催でなければ参加は難しい。 D：東京だけでなく、全国各地の大都市だけでもよいので開催するべき。地元でやっていたら、夏休みの自由研究に絡めて参加させるのも良いと思う。	A：若い人はXやInstagramばかりやっているため、SNSを活用。 自分の地域は繋がりがあまりないため、学校に企画提案して学校行事で行けば子供も楽しめる。 大学で進路を考え直すこともあるため、大学生にアピールするのも良い。 B：テレビやラジオで満遍なく周知。 C：地域には公民館などの集まれる場所が必ずあるため、地域の広報を通して発信し、休日に出張で実施。 子供1人では行けないが、親子で東京に行くとなると交通費がかかるので、人数制限ありで交通費が出るのであれば自分も行っても良い。 D：近場に来て欲しい。親も休みを取らなければならず、交通費や宿泊が必要だったりするため、1日1時間だけという気軽さでは行けない。 地域よりは学校の友達と体験する方が本来の自分の感覚でできそう。
	取組② 研修 見学会	D：体験教室はよいが、そこから上のステップは現時点では難しい部分はある。	A：まずは学校で体験教室を行い、興味をもった人がステップアップしていくと良い。
	取組③ プレ研修	D：体験教室はよいが、そこから上のステップは現時点では難しい部分はある。	A：まずは学校で体験教室を行い、興味をもった人がステップアップしていくと良い。

養成所入所者増加のためのアイデア

	グループ1	グループ2
グループ区分	関心層 子供が希望すれば伝統芸能の職業に就かせても良い	関心層 子供が希望しても伝統芸能の職業に就いて欲しくない
入所者増加のためのアイデア 国立劇場養成所	A : 歌舞伎に興味をもったのは、ジャニーズの滝沢歌舞伎やSnowManの宮舘涼太さんのSANEMORIがきっかけだったため、知ってもらうためには客を寄せることができる有名人に歌舞伎を少しやってもらって広げてもらうのが良いと思う。 B : 養成所の研修生の出来具合を時々披露する無料公演があると、実際に通っている人のレベルを見ることができイメージが付きやすい。 C : 小学生を無料招待し、プロの舞台を生で観てもらう機会を多く作らないと難しい。 D : 大きな公演や舞台がある時に全国を回って前座で子供だけを対象にするなどして、子供が生で観る機会を増やす。	A : 女子は入りにくい雰囲気があるため、女子も歓迎しているという雰囲気を出した方が良い。女子は一部分野のみなど、少し寂しい感じもある。 B : 希望者に対しては研修内容に高卒または大卒のカリキュラムを組み込んで学歴資格を取れるようにした方がより広がると思う。 C : 大学のように修了後の進路や就職先と、1年目で良いので月にどの程度の待遇を得ているのかというデータを発信する。専門職になるため、大卒程度以上の給料だと良い。 D : 応募資格の年齢の上限を引き上げる。大学卒業後や社会人になった後にきっかけがあり芸能をやってみたくなる人がいると思う。一度別の分野に行ったがやはりやりたいという人もいるため、30〜35歳くらいまでに上げれば幅が広がりそう。

各グループの特徴まとめ

グループ間での共通点・相違点として下記の傾向がみられた。

共通点	子供の就職先について	子供の意向を最優先させる。	
	地元を出て働くことについて	抵抗は感じない。時代の流れもあり、海外で働く可能性もあるという意見もみられた。	
	伝統芸能の職業への印象	世襲制というイメージが強く、その他にも厳しい稽古や生計を立てることが難しいという印象をもっている。	
	養成所の概要への印象	最終的に修了してプロになれるのか、プロになった後に生活していくことができるのかという本人の適性の有無に対する不安を感じている。	
	養成所の取組への印象	伝統芸能体験教室に対して、伝統芸能理解への入り口の取組として高く評価している。一方で、地方での実施がない場合は参加が難しいと考えている。	
		グループ1	グループ2
		子供が希望すれば伝統芸能の職業に就かせても良い	子供が希望しても伝統芸能の職業に就いて欲しくない
相違点	子供の就職先について	就業環境については休日の取りやすさや負担の少なさを重視する傾向にある。	就業環境は良い方が望ましいものの、子供が厳しい環境に就職した場合でも社会勉強になると捉える傾向にある。
	伝統芸能との関わりについて	自身も実際に鑑賞していたり、地域の伝統芸能の役員を務めているなど関わりがある人が多い。	半数は実際に伝統芸能を鑑賞する機会があった一方で、残りの半数は興味はあるもののこれまでに鑑賞の経験がない。
	伝統芸能の職業への印象	不安はあるものの、現実的に考える意識はみられた。	ネガティブなイメージが先行していることが窺える。
	養成所の受講料への印象	受講料が無料であることについて、どのレベルまで教えてもらえるのかわからないという点を不安に感じる傾向がみられた。	受講料が無料であることについて、特にネガティブな意見はみられなかった。

伝統芸能の職業に対する印象

伝統芸能の職業に対するイメージ・不安としては、以下に分類される。

✓ 世襲制・一子相伝

- ◆一族・一門のような後ろ盾がないと厳しそう。
- ◆小さい頃から養子に入らないと難しい。
- ◆親戚付き合いが必要になる。

✓ 稽古が大変

- ◆非常に過酷な練習がある。
- ◆稽古に耐えられなそう。

✓ 生活していくレベルまで到達するのが難しい

- ◆食べていけるレベルまで上がって行ける人の方が少なそう。
- ◆やっただけ収入が増えるわけではない。
- ◆親がある程度の援助をしていかなければならない。

✓ 下積みが長い

- ◆開花するまでのハードルがかなり高い。
- ◆下積みが長い一方で、息も長い。

国立劇場養成所の概要に対する印象

 インタビュー内での、対象者への呈示内容

応募資格：中学校卒業（卒業見込みを含む）～原則23歳以下の方。経験不問。

※歌舞伎と人形浄瑠璃文楽は男性のみ。

※寄席囃子は中学卒業～45歳までの女子で長唄三味線の素養がある者。



- ◆ 経験不問に対して、**敷居が低くしがらみがない**というポジティブな意見がみられた。
- ◆ 好きでも素養がなければプロになれず、途中で脱落してしまうという、**子供の適性に関する不安**がみられた。

研修期間：2～6年（分野により異なる）。



- ◆ 期間については長いと感じつつも、**人前に立てるようになるには必要な年数であることは理解**している。
- ◆ 研修修了後に脱落してしまった場合に、**年齢的にも行き場を失うこと**に不安を感じており、**研修期間後に残る人数**が気になっている。

研修場所：東京・大阪（人形浄瑠璃文楽のみ）。



- ◆ 本人が希望するのであれば**地元を離れることは気にならない**という意見が多数。
- ◆ 懸念点として、緊急時に駆け付けづらいという意見もあった。

国立劇場養成所の概要に対する印象

選考～修了の流れ：作文簡単な実技、面接で選考し、研修開始。
研修開始後8ヶ月以内の適性審査で継続の可否を判断。
修了後は協会等に属し、舞台に出演する。

- 
- ◆ プロになれる保証がない、**適性審査の合否基準がわからない**、**最終的に何人が修了し活躍できるのか**という、プロになれることに対する不安が多く挙がった。
 - ◆ 家柄でない養成所の出身者がどの程度のレベルまで活躍することができているのかが知りたいという意見もみられた。
 - ◆ 修了できたとしても、**独り立ちした後にも生計を立てられるのか**という不安も同様にもっている。
 - ◆ プロになる前/なった後でいずれも、途中で続けられなくなった時に**潰しが効かない**ことを懸念しており、特に中学卒業後に入所した場合は**中卒程度となってしまう**ことが障壁となっている。

その他：受講料無料、教材は貸与及び支給。
遠隔地に居住する研修生には宿舍を貸与（審査有り・有料）、又は住宅費補助金を給付。

- 
- ◆ 受講料が無料であることについては、ポジティブな意見がある一方で、**どのレベルまで教えてもらえるのか**という不安もみられた。
 - ◆ 受講料以外の費用については、足袋などの**消耗品は自己負担**でよいが、着物や楽器などの**高価なものについては自己負担は難しい**という意見があった。
 - ◆ 食費や家賃などの生活費はかかるため、**研修時間以外でのアルバイトが必要**という認識をもっている。

国立劇場養成所に関する情報発信について

伝統芸能関心層の拡大と国立劇場養成所応募者増加のためのアイデアとして、下記の意見が挙がった。

興味をもつ人を増やす

伝統芸能体験教室の実施方法・PR方法について

実施方法

- 東京や大阪だけでなく、地方都市も含めた全国各地で実施する。
- 学校行事として実施する。
- 公民館など、それぞれの地域の人が集まれる場所で、親子で参加できる休日に実施する。
- 東京や大阪などの限られた場所で実施する際には、遠方からの参加者の交通費を負担する。

PR方法

- SNS広告を通して発信する。
- テレビやラジオで幅広く周知する。
- 学校での周知。
- 進路について考えている大学生にアピールする。
- 夏休みの自由研究と絡めてPRを行う。

養成所応募者を増やす

養成所の情報発信・制度の変更について

情報発信

- 大学のように、修了後の進路や就職先のデータを発信する。
- 毎年の入所する研修生の人数と、その中で最終的に修了する人数についてのデータを発信する。
- 1ヶ月あたりの給料についての情報を発信する。
- 養成所出身で活躍している人がどの程度いるのかという情報を発信する。
- 希望者の家族に対して稽古の内容や宿舎を案内する。
- 選考試験や適性審査の難易度についての情報を発信する。

制度の変更

- 希望者に対しては研修内容に高卒または大卒のカリキュラムを組み込み、学歴資格を取れるようにする。

募集条件の変更

- 年齢の上限を30～35歳に引き上げ、大学卒業後や社会人からでも応募できるようにする。
- 女性でも応募ができる分野を増やす。

保護者が一般的な職業選択において重視すること

- 基本的には、子供の意向を重視しており、子供が希望する仕事や業界の中で、就職先を比較検討する際に保護者の希望する条件が検討材料の一部として存在するという位置づけであった。
- 仕事内容としては、資格をもつことができる等、途中で仕事を辞めざるを得なくなった場合にも転職をすることができるような職種を求める傾向にある。
- 環境面での考え方についてはグループで異なっており、グループ1では休日の取りやすさやサービス残業がない大企業を希望していた一方で、グループ2では就業環境の悪さも含め社会勉強であると捉えている。

伝統芸能の職業に対するイメージ

- **世襲制・一子相伝で、限られた人しか活躍できない**
伝統芸能の職業に入ることにより、家族ぐるみでの付き合いが必要であることや、後ろ盾がなければ活躍が難しいと考える人が多い。
- **稽古が厳しい**
過酷な稽古を行う必要があるため、自分の子供に対して素質や忍耐力の面で不安を感じている傾向がある。
- **プロになった後も生計を立てるのが難しい**
プロになった後も生計を立てていけるレベルには一握りの人でしか到達できず、保護者がある程度の支援を行っていく必要があると考えている。
- **下積みが長い**
職業として開花するまでのハードルが高く、下積みが長いことで、生計を立てていけるまでに時間がかかるという印象をもっている。

伝統芸能の職業に就いても良いと考える理由

- グループ1の対象者については、全員が子供が希望するのであれば挑戦してみてもよいという意見であった。個々の理由としては、伝統芸能の道に進むことを貴重な経験と捉えており、挫折した場合でも経験を生かすことができると考えていることや、伝統芸能を残していきたいと考えていることなどが挙げられた。伝統芸能の職業に対して、特殊な環境下で子供の成長に繋がると考えていることが窺える。

地元を離れて働くことへの考え

- 地元を離れて遠方で働くことに対して反対する意見はみられなかった。時代の流れも踏まえ、日本だけでなく海外で働く可能性もあるという認識をもっている人が多い。遠方で働くことに対する懸念点としては、緊急時に駆け付けることが難しいという点が挙げた。

国立劇場養成所の概要に対する印象

- 経験不問であることや、始める際に情報が多くない中で養成の場が存在することに対しては、ポジティブな意見がみられた。また、受講料が無料であることに対してもポジティブな意見がみられた一方で、無料の範囲では多くを学ぶことはできないという印象をもつ人も複数みられた。入所をすればプロになれるレベルまでの研修が受けられることを理解してもらえような情報発信が必要である。
- 研修期間における不安としては、適性がなかった場合に途中で脱落してしまうという印象をもっている人が多い。入所後に適性審査もあるものの、その時点では見極めが難しいことや、それ以降も適性がなければ脱落してしまうと考えている。適性審査の基準や修了時の人数など、プロになるまでのハードルをイメージできる情報を提供していく必要がある。
- 修了後については、生計を立てていくことが難しい世界であると捉えており、特に、家柄でない養成所出身者がどの程度活躍することができののかという点を不安に感じている。修了者の活躍に関する情報や修了者が出演する公演に対する関心がみられた。
- 修了前・修了後ともに、途中で続けられなくなった際に他の選択肢を失ってしまうという点についての不安が多く見られた。特に、中学卒業後に養成所に入所していた場合は中卒となり、選択肢が狭まってしまうため、養成所でも学歴資格を取ることができるようなカリキュラムを希望する意見もあった。

応募者増加のための取組について

- 国立劇場養成所が行っているイベントについては評価が高く、特に入門編としての体験教室については子供を参加させたいという声が多く挙がっていた。一方で、東京や大阪から離れた地域に住む対象者からは、費用や時間の問題もあり東京に来てまで参加はしないという意見が多い。全国各地の施設や学校での開催や、親子で参加できる休日に開催するなど、地方在住者が参加しやすいイベントにする必要がある。
- 入所を希望している層に対する取組の案として、希望者の家族に対して稽古の内容や宿舎を案内するオープンスクールを実施する案が挙げた。国立劇場養成所で行っている研修見学会やプレ研修がより入所を検討している層に対して有効な取組であるという評価となっていた。
- 取組について知られておらず、PRを行うべきという意見が多く見られた。

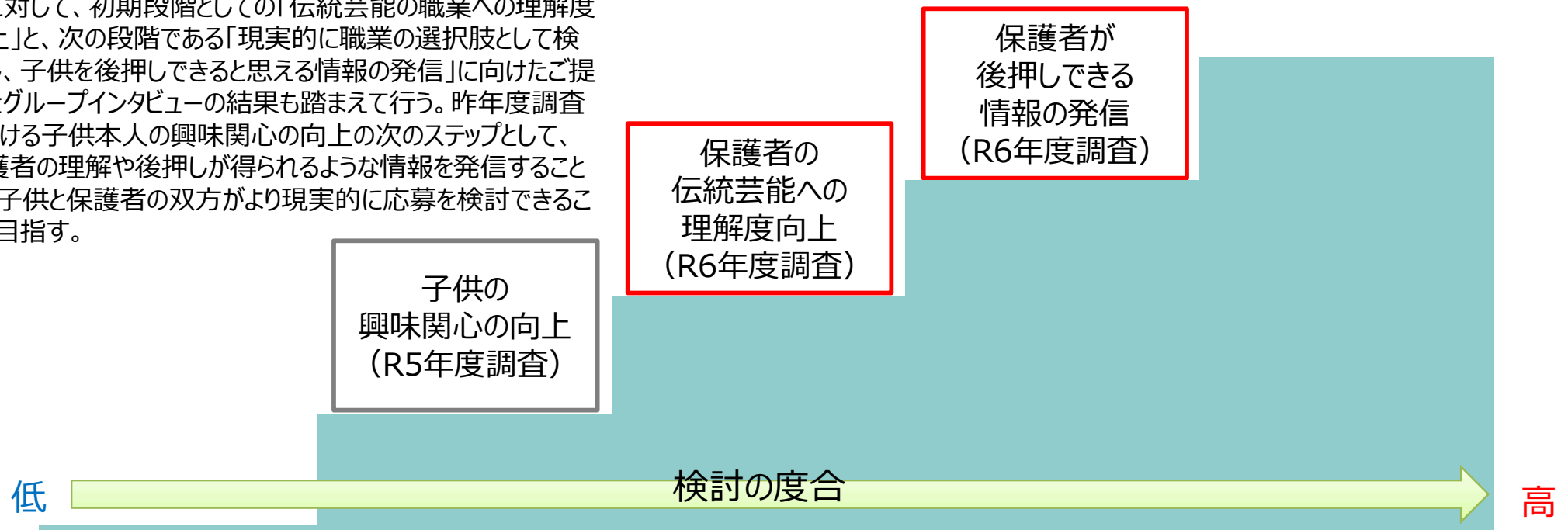
3. 今後に向けたご提案

【ご提案にあたっての考え方】

定量調査の結果を受けて

子供が伝統芸能の職業に進むことへの不安要素については、関心層～一般層②のそれぞれにおいて、割合が高い項目は共通の傾向がみられた。よって、伝統芸能の職業への不安は保護者の伝統芸能への関心の高低に関わらず、共通していることが考えられる。

本年度の調査では、関心層・一般層に関わらず全ての保護者に対して、初期段階としての「伝統芸能の職業への理解度向上」と、次の段階である「現実的に職業の選択肢として検討し、子供を後押しできると思える情報の発信」に向けたご提案をグループインタビューの結果も踏まえて行う。昨年度調査における子供本人の興味関心の向上の次のステップとして、保護者の理解や後押しが得られるような情報を発信することで、子供と保護者の双方がより現実的に応募を検討できることを目指す。



調査結果を受けての
ご提案ポイント

- ① 保護者の伝統芸能の職業への理解度向上
- ② 保護者が後押しできると思える情報の発信

保護者の伝統芸能の職業への理解度向上に向けたご提案

既存の伝統芸能体験教室の有効活用

国立劇場伝統芸能伝承者養成所が主催する“やってみる”シリーズについて、グループインタビューにおいては伝統芸能への入り口の取組として評価が高かった。この取組は、子供の興味関心の促進だけでなく、伝統芸能の職業に関して検討段階にない保護者の理解度向上においても有効であることが考えられる。一方で、グループインタビューにおいて、「参加のしやすさ」については向上の余地があるという意見がみられた。グループインタビューで挙げた意見を基に、より参加しやすいイベントとして捉えられるような「実施方法」「PR方法」のご提案を行う。

実施方法

- ✓ 地方都市も含めた全国各地での開催
東京周辺以外の地域に住む人は、参加のために東京までの交通費や、地域によっては宿泊費もかかってしまうため、短時間のイベントであるほど参加のモチベーションが上がらないという意見がみられた。地方都市も含めた全国各地で出張での開催を求める声が多く挙げた。
- ✓ 地域の人が集まる施設での開催
地元の公民館など、地域の人が集まれる場所で実施することで気軽に参加ができるという意見がみられた。
- ✓ 学校行事として実施
特に、地域の繋がりが薄い地域に住む対象者からは、学校行事として行うことで、子供にとっては友達と一緒に体験を行うことができ良いという意見がみられた。
- ✓ 休日の実施
特に、子供が小さい保護者については、子供と一緒に参加する必要があるため、仕事が無い休日の開催を希望している。
- ✓ 交通費の補助を行う
東京や大阪のみなど限られた場所で実施する場合は、遠方からの参加者の交通費を補助することで、参加へのハードルが下がると考えられる。

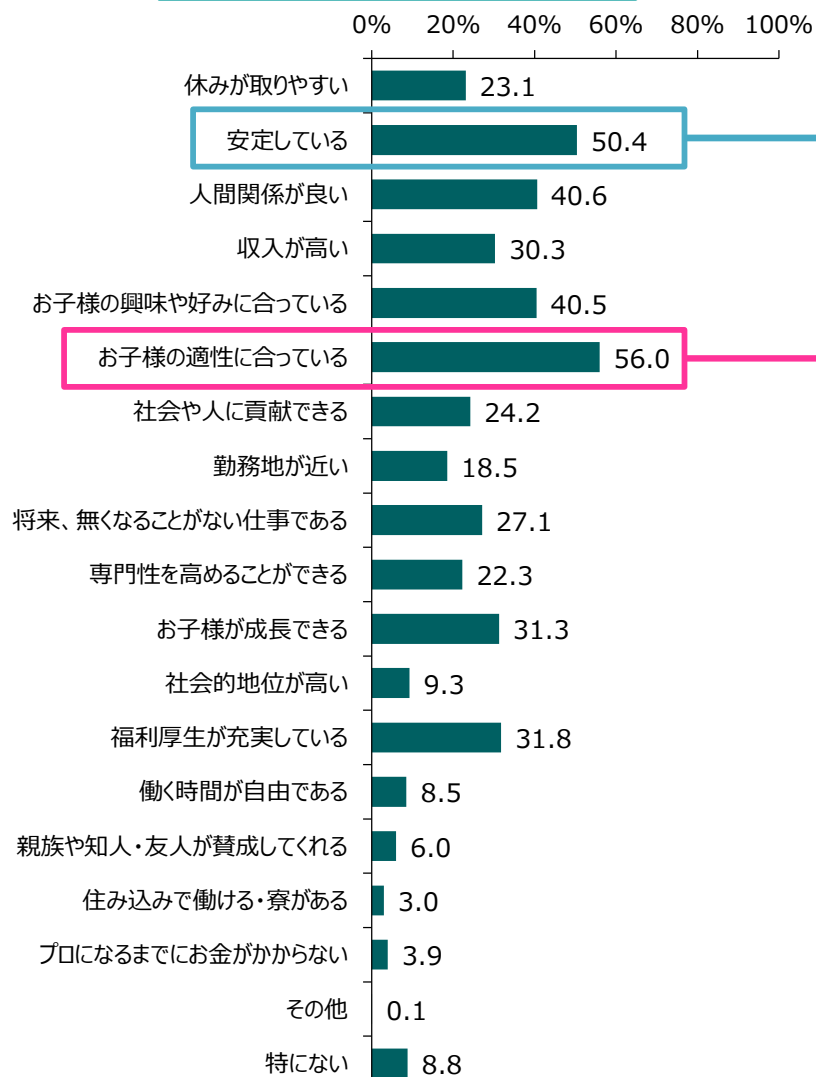
PR方法

- ✓ SNS広告を通した情報発信
SNS広告で発信することで、特定の属性に対するターゲティングが可能であるとともに、養成所のHPやアカウントを見ない人の目にも触れることができる。
- ✓ 学校での周知
ターゲットとなる世代の子供に対し、小学校～高校まで幅広く学校での案内配布を行うことで、興味をもった子供が自発的に参加を希望する可能性が高まる。
- ✓ 学年・年代に応じたPRを行う
学年・年代により、子供の意識も変化する。小中学生には親子参加が可能で楽しく学べること、高校生、大学生には進学先、就職先検討の機会にもなるような場であることをアピールすることで、それぞれの学年・年代においてニーズに合った場を提供することができる。
- ✓ 夏休みの自由研究と絡めたPRを行う
自由研究の一環としての参加であれば、参加をしても良いと考える意見も挙げた。年齢によっては保護者も含めてテーマを考える家庭もあることが窺えるため、参加のきっかけになると考えられる。

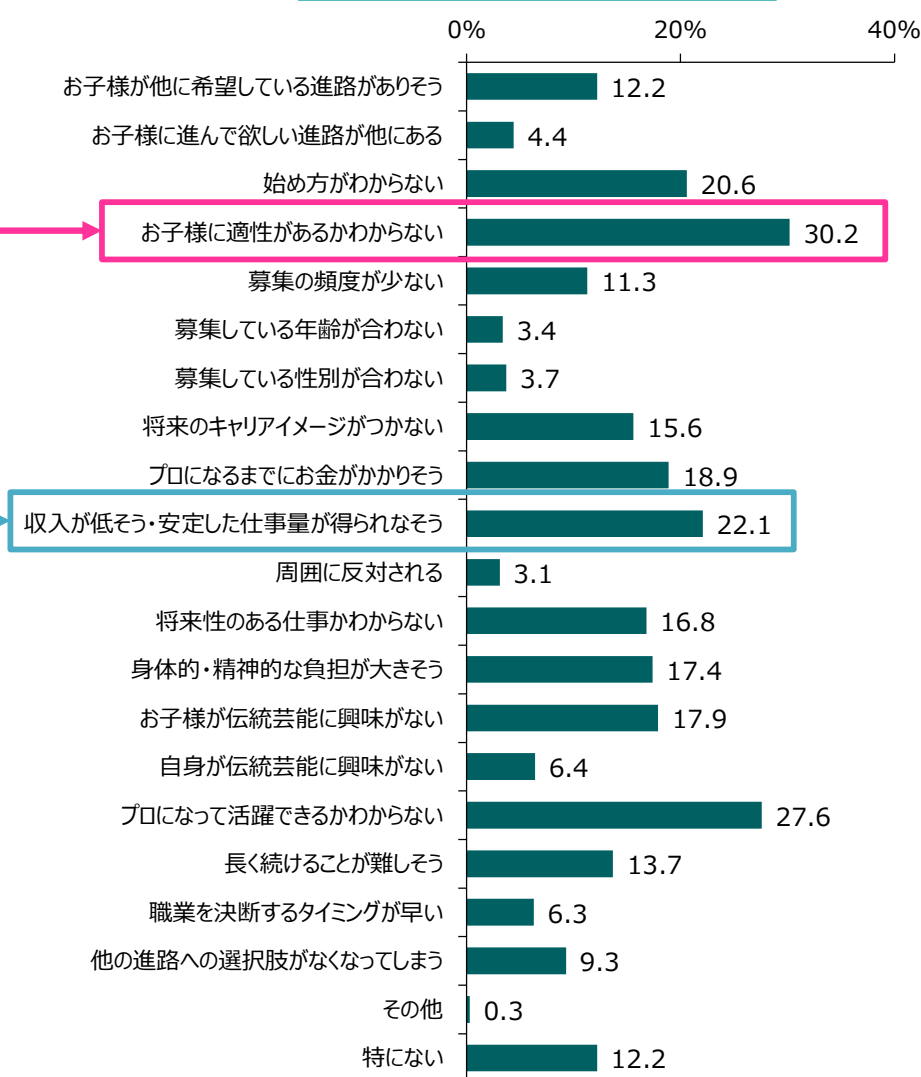
保護者が後押しできると思える情報の発信に向けたご提案

- 定量調査結果を見ると、子供の職業として重視する条件の上位2項目が、伝統芸能の職業に対する不安としても回答が多い項目となっている。保護者の希望する就職先と保護者のイメージする伝統芸能の職業の間に大きな乖離があることが窺えるため、このギャップを埋めるための情報発信が求められる。

子供の職業として重視する条件



伝統芸能の職業に対する不安



保護者が後押しできると思える情報の発信に向けたご提案

就職先としての伝統芸能の職業に関する情報発信

伝統芸能の職業に関する情報はあまり発信されておらず、魅力や実態が認知されていない。また、伝統芸能を職業として検討した際に、情報へのアクセスが難しく、保護者にとっても現実的に考える上での検討材料が少ないと感じていることが本調査結果から窺える。今後、伝統芸能をより現実的な職業の選択肢として検討してもらうために、企業がHPやパンフレットなどで行う採用情報のような**求職者やその保護者が求める情報を集約して発信**することが求められる。今回の調査結果から、保護者が求める情報やサポートの内容を踏まえ、発信する情報の内容についてご提案を行う。

必要とされる能力についての情報

✓ 未経験から始められることのアピール

伝統芸能に対して世襲制のイメージを持っている人が多かった。未経験から始められることについては認知を広げる余地がある。

✓ 修了までのハードルに関する情報を提供

◆ 選考試験や適性審査の難易度がわかるような情報を提供

子供に適性が無く、途中で脱落してしまうという不安をもつ人が多かった。特に適性審査については、**必要な能力の水準などの難易度がわかる情報**を提供することにより不安の払拭に繋がると考えられる。

◆ 修了できる人数についての情報を提供

伝統芸能の稽古について過酷であるという印象を持っている人が多く、修了まで続けることができるのかという点を不安に感じている。**入所者のうちの何割程度が最終的に修了しているのか**、具体的な数字を示すことにより、修了までのハードルについてのイメージをもつことができると考える。

キャリアに対する期待感を高める情報

✓ 養成所の修了者の活躍についての情報発信

◆ 修了者の就職先データの提供

修了できたとしてもプロになれない可能性がある点を懸念する意見が多くみられた。修了後にこういった場で活動を行っていくのかのイメージができる情報を求めていることが窺える。

◆ 養成所出身者で活躍している人の紹介

受講料が無料であったり、短期集中型であることから、**養成所を修了する頃にどの程度のレベルにまで到達できるのかを知りたい**という意見がみられた。養成所出身者で活躍している人を複数紹介することにより、養成所修了後の期待感を高めることができる。

✓ 仕事を続けていくためのサポート体制のアピール

収入や安定性については、伝統芸能の仕事における不安として特に多く挙がったため、**修了後も仕事の斡旋などのサポートを行う**ことをアピールし、職業としての不安払拭に繋げる。

✓ やむを得ず続けられなくなった際の選択肢を提供

◆ 高卒資格・大卒資格を取得できるカリキュラムの導入

伝統芸能を続けられなくなった場合に、**高校や大学の卒業資格を持っていないと再就職が難しい**という点も障壁となっている。研修と並行して卒業資格を取得できるようにすることで、キャリアにおける安心感が高まる。

◆ 伝統芸能で培った能力を活かせる仕事の提案

専門性が高い伝統芸能の特性上、**他の仕事への応用が難しい**と考える人が多く、伝統芸能を続けられなくなった場合に再就職が難しいと考えている。伝統芸能で培った能力を活かした働き方の提案を行うことで、キャリアにおける安心感が高まる。

保護者が後押しできると思える情報の発信に向けたご提案

経済面 に関する情報

✓ 修了後の経済面に関するデータの公開

◆ 修了後の給与に関するデータを公開

修了後の給与について、生計が立てられないイメージを持っている人が多い。保護者の目線では、高収入でなくても、1人で最低限の生活を営むことができる水準であるかを把握したいと思っている。そのため、例えば、1年目の1ヶ月あたりの給料など、年次を定めた上で目安の金額を示すことで、伝統芸能の職に就いて生活していくイメージをもつことができると考える。

◆ 修了後にプロになった人のスケジュールを公開

将来的な生活やライフプランを描く上で、休日や他の活動・仕事の有無、仕事とプライベートとの比率などの情報が求められる。1週間や1ヶ月単位のスケジュールを公開することで、仕事を続けていけるかどうかの判断の指標となる。さらに、より長期的なスケジュールの公開を行うことにより、ライフプランも含めたイメージをもつことができると考えられる。

✓ 研修中にかかる費用についての公開

受講料が無料であるものの、収入がない中で生活していくことを踏まえ、研修中にかかる費用の内訳についての情報を公開することにより、保護者にとっても援助が必要となる金額を知ることができる。

環境・待遇 に関する情報

✓ 養成所で貸与されるものについての案内

(例) ①楽器や衣裳について②宿舍のイメージや審査について
③奨学金について

伝統芸能の特徴の1つである着物や楽器などについて、高額であるイメージをもっていることが窺える。普段馴染みがない人が多く、費用のイメージがもちづらいこともあり、全て自己負担と考える人にとっては金銭的な負担が大きいと捉えられてしまう。そのため、特に高価なものについては貸与の制度もあることや、宿舍や奨学金などの支援についてアピールすることで、金銭的な負担感の軽減に繋がることが考えられる。

✓ 養成所内での人との関わりについての様子を公開

伝統芸能に対して、縦社会や上下関係を思い描く人も多いが、実際の講師や研修生同士との関わりについての様子を公開することにより、自身が養成所に入った後のイメージをもつことができると考える。また、講師陣のレベルの高さもアピールができると考える。

✓ 養成所の見学会を実施

既に行っている研修見学会、プレ研修等、実際に養成所の雰囲気を感じることができ、実際に養成所の雰囲気を感じることができ、応募検討の意欲を高めることができる。

その他

✓ 就職に関する相談窓口の設置

昨年度調査に引き続き、始め方がわからないと感じる人が多いことが窺える。また、伝統芸能を本格的に検討している層に対しても就職に関する相談窓口を設置し、上記の情報とともに案内することで、本人や保護者の不安の払拭の場とすることができる。